



Case study

RESIDENTIAL

DuPont™
CORIAN®
NEWS



1_ キッチン扉はウォールナット。 2_ 照明の装飾にもヘーゼルナッツを用いてトータルコーディネート。 3_ アールのラインが空間にエレガントな雰囲気を与える。 4_ 洗面化粧台は、ナラの木目を生かしてホワイトに塗装したキャビネットと「デュポン™ プライベートコレクション」レインクラウドの組み合わせ。 サイドキャビネットの棚板もデュポン™ コーリアン® 製。



住まいをエレガントに引き立てる デュポン™ コーリアン® のカウンター

◆ 熊本県 I 氏邸

熊本県 I 氏邸

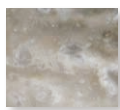
竣工
2015 年 9 月

キッチン/洗面化粧台/家具製作・施工
リブレ株式会社

〈使用されたデュポン™ コーリアン®〉



レインクラウド



(NEW)ヘーゼルナッツ

九州山地の山々に囲まれた盆地に位置し、鹿児島・宮崎両県に接する熊本県人吉市。いまも城下町の風情を残すその街に、I 氏邸が新築された。アンティーク家具が大好きだというオーナーのセンスに合わせて提案された住まいは、エレガントな雰囲気の平屋の洋館。キッチンや洗面を中心にさまざまな造作家具の製作を手がけたのは、九州のオーダーキッチン専門メーカーであるリブレ株式会社だ。

「キッチンには、シヨールームでご覧になったものを大変気に入っていただき、同じ素材の組み合わせで製作しました」と同社代表取締役社長の東郷彰氏。「デュポン™ プライベートコレクション」のヘーゼルナッツを使用したトップは、ラウンドしたカウンターテーブルと一体化。ヘーゼルナッツの流れ模様の美しさを存分に味わうこともできる、ゆとりある大きさだ。バック収納のカウンターにもヘーゼルナッツを採用。エレガントで洗練された、インテリアの一部のようなキッチンとなった。

「加工性に優れた素材だからこそ、お客さまのご要望に合わせたサイズ、暮らし方に合うデザインが提案できますね」と東郷氏。

一方、2ボウルの洗面台にはレインクラウドのトップを採用。洗面ボウルもデュポン™ コーリアン® 製のものを用いてシームレスに仕上げた。「シームレスに加工ができる掃除が楽になりますから、使い始めてから、より高い満足感を得ていただけていると思います」。



玄関ホールに置かれた花台もトップにレインクラウドを使用。



「デュポン™ プライベートコレクション」ヘーゼルナッツのカウンターは、小口を 100mm にして重厚感を演出。それでいて、キッチン本体との間にスリットを設けることで、まるで石が浮いているような軽やかさも感じるデザインに。バック収納にはビルトインオープンや機能性にすぐれた収納を配置している。



自由なデザインと高品質で期待に応える オーダーキッチン専門メーカーの自信作

◆ リブレ ショールーム

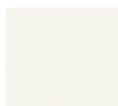
リブレ ショールーム

製造・販売
リブレ株式会社
<http://www.libre-kitchen.com>

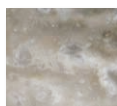
宮崎本社・ショールーム
宮崎県北諸県郡三股町蓼池 3628-3
TEL: 0986-52-6850



〈使用されたデュポン™ コーリアン®〉



カメオホワイト



(NEW)ヘーゼルナッツ

フランス語で「自由な」という意味の社名を持つオーダーキッチン専門メーカー「リブレ」。名前のとおり、自由な発想と素材の組み合わせを楽しんだ多彩なキッチンを次々に提案している。

そのクリエイティブなデザインや、オーナーのこだわりに応える機能を可能にしているのは、宮崎県にある本社工場で作りに携わる職人たちの高い技術力だ。

そんな同社の本社ショールームに「デュポン™ プライベートコレクション」のヘーゼルナッツを使用したキッチンが登場した。

「これまでにない落ち着いた流れの模様が、ヨーロッパアン調のどっしりとした天板にぴったりだと思いました」と話してくださったのは、リブレ株式会社代表取締役社長の東郷彰氏。

ウォールナットの美しい木目を生かした扉とヘーゼルナッツのはっきりした模様の組み合わせは、クラシックとモダンが交錯する佇まいだ。



本体にデュポン™ コーリアン® カメオホワイトを用い、天板に木を使ったワゴン。キッチンと素材をそろえてオーダーが可能。

オーダーメイドキッチンならではの自由だけでなく、徹底して高品質を追求する同社。たとえば、上の写真で紹介しているキッチンのステンレスシンクは職人による手作り、キャビネットの引き出しには、標準で耐荷重 50kg のレールを採用。扉に用いる天然木は、丸太で仕入れた木材の中から厳選したものを使用し、実際に使うものを施主に見せているという。

それほど品質にこだわるメーカーで、キッチンをオーダーする半数以上の方が、デュポン™ コーリアン® をカウンタートップに選んでいるという、うれしいお話も浮かがえた。



シーム接着と高い加工性を実現する ゆとりのキッチンカウンター

◆ クチーナ ショールーム〈大阪・東京・仙台〉



1_エレベーターの扉が開くと真正面に鎮座する新作のアイランドキッチン。新色シーフォームのカウンタートップは、幅3230mm×奥行き1040mmのゆとりのサイズ。シンクもデュボン™ コーリアン® 900Jを使用。〈大阪〉

古くから家具の街として知られ、今ではカフェや雑貨店、インポート家具やインテリアショップなどが立ち並ぶ大阪・立花通り。その一角にある7階建てのビルが、クチーナ大阪ショールームだ。同ショールームでは、輸入家具やオリジナル家具なども扱っているが、2・4階はキッチン専門のフロア。そのキッチンフロアが2015年7月にリニューアルし、2階のキッチン12セットのうち2セットにデュポン™ コーリアン®が採用された。フロアの顔となる入り口正面に置かれたキッチンの天板には、新色の「デュポン™ プライベートコレクション」シーフォームが選ばれた。

「クチーナの新色であるパールネイビークラフトJを面材に使用したキッチンです。深いブルーの中にわずかにきらめく素材を加えた塗装で、ライトの加減で光り方が変わります。この色と組み合わせで、カジュアルにならず、展示のメインになるキッチンにふさわしい天板を探したところ、シーフォームしかありませんでした」とクチーナ大阪の山本浩司氏。オーダーシステムキッチンのパイオニアであるクチーナでは、これまでもデュポン™ コーリアン®をはじめとするさまざまな素材の組み合わせで、インテリア性の高いキッチンを提案してきた。

「デュポン™ コーリアン®を採用する一番の利点は、シーム接着がで

るため、幅3300mmなどのキッチンカウンターを製作する際にも、継ぎ目が目立ちにくいことです。さらには、修復ができ、メンテナンス性が高いことも魅力の一つです」と山本氏。現場でのカット施工なども可能な高い加工性も、キッチンの素材選びにおいては欠かせない要素となるという。

「新築物件では、建物の建設工事とキッチンの製作は同時進行となります。そのため、現場での細かい採寸ができません。完成したキッチンを持ち込むと、わずかな長さの違いや、凸凹など、どうしても図面との多少のズレが起きてしまいます。そんな場合でも、デュポン™ コーリアン®なら現場で加工ができるので、安心ですね」。

お客様ひとりひとりのライフスタイルや好みに合わせて形やサイズ、素材を選んで提案するクチーナ。その豊富なバリエーションにデュポン™ コーリアン®も貢献している。

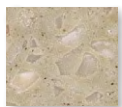
〈使用されたデュポン™ コーリアン®〉



マグナ・オイスターシェル



(NEW) シーフォーム



(NEW) セージブラッシュ



2



4



3

2_ ネイビー色を上品に演出した新しいキッチン。クチーナ大阪ショールームでは、年1回程度の間隔でキッチンフロアをリニューアルする。 3_ ホワイトオーク材の木目を目立たせた新色の扉「フレスコプロヴァンスシリーズ」に、デュポン™ プライベートコレクションの新色セージブラッシュを合わせた洗面台。洗面ボウルもデュポン™ コーリアン®のラバトリールボウル840と815。4_ 壁づけのL字形キッチンとアイランドカウンター。オリーブの木目が印象的な面材にマグナ・オイスターシェルがなじむ。〈すべて大阪〉



5_ ダイニングテーブルと一体となったカウンターキッチンにはラバロックを採用。流れるような地紋は扉板との相性も良く、落ち着いた雰囲気を演出。〈仙台〉



7



6



10



9



8

6_新色のバジルを使用したクチーナ東京ショールームのカウンターキッチン。和食ダイニングのような雰囲気。 7_右の写真のバックキャビネットのカウンター。こちらも新色のソレルを採用。
8_ラバロックとステンレスシンクを組み合わせ硬質なイメージに。 9_洗面台はトレンテ® ページュ。 10_L字形カウンターキッチンはデザイン性を重視して、カウンター前面もマグナ® オイスターシェルに。 11_クチーナ仙台ショールームのサインもデュポン™ コーリアン® で製作されていた。(6・7 東京、8～11 仙台)

これまで関東以北にショールームを展開していなかったクチーナ。今年6月、仙台に待望のショールームがオープンした。「東北エリアのお客様にも、デザインだけでなく、大きさや高さをmm単位で指定できること、天板などの素材もオーダーできる楽しさを知っていただきたいですね」と語るのはクチーナ仙台的の山本佳美氏。このショールームでひとときわ目を引くのが、ダイニングテーブルと一体となったデュポン™ コーリアン® のカウンターキッチン。その自由な発想は、まさにインテリアはキッチンから始まるという同社の理念を体現している。

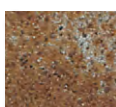
一方、常に最先端のデザインを提案している東京のショールームでは、新色のバジルとソレルの濃色系のデュポン™ コーリアン® を採用したカウンターキッチンを展示。ミッドセンチュリーの雰囲気も感じられる大人びた佇まいは、キッチンⅡ淡色系という固定概念から解放し、真の自由なキッチンづくりを体現。

「新色のバジルやソレルは、和のテイストにもよく合い、提案の幅が広がります」とクチーナの三田光明氏。67色もの豊富なカラーバリエーションのデュポン™ コーリアン® と約80種類の扉材を組み合わせること、無限大の可能性を見せてくれるクチーナ。そのショールームでフルオーダーの魅力を知るとともに、ぜひデュポン™ コーリアン® の手触りや使い心地を体感していただきたい。

〈使用されたデュポン™ コーリアン®〉



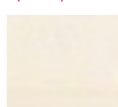
(NEW)ソレル



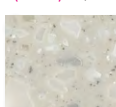
(NEW)バジル



ラバロック



トレンテ® ページュ



マグナ® オイスターシェル



11

クチーナ ショールーム
〈大阪・東京・仙台〉

<http://cucinastyle.jp>

〈クチーナ大阪 ショールーム〉
大阪府大阪市西区南堀江 1-7-1
Tel.06-6533-3461

〈クチーナ東京 ショールーム〉
東京都渋谷区鉢山町 15-1
Tel.03-3496-1003

〈クチーナ仙台 ショールーム〉
宮城県仙台市青葉区中央 4-8-3
Tel.022-716-6755 (予約制)



1_ キッチンに隣接する変形の空間に、カウンター収納を設けて、食器などの収納場所としている。カウンタートップは新色のヘーゼルナッツ。小口に厚みを持たせて、ほどよい重厚感を演出している。

制約のあるリノベーションの現場でも 加工性や色柄の豊富さがアドバンテージに

◆ STUDIO KAZ

「デュポン™ コーリアン®」という素材は、機能面で注目されることが多く、どうしても水回りの天板という印象が強いですね。でも、まずは常識にとらわれず、木や石や、その他の素材と並列に考え、選択肢に入れることで、もっと可能性が広がる素材だと思っています」とおっしゃるのは、STUDIO KAZ 代表、キッチンデザイナー・インテリアデザイナーの和田浩一氏だ。

オーダーキッチンのデザイン、住まいのリノベーションなどを手がけ、日頃からデュポン™ コーリアン®を扱う機会も多い和田氏だが、昨年の「朝日 住まいづくりフェア 2014」に出展したデュポン™ コーリアン®のブースデザインや、2014年デュポン™ コーリアン®カタログで「異素材との組み合わせ」の監修も手がけられた。今回は、デュポン™ コーリアン®を知り尽くす和田氏が手がけた、リノベーション物件2事例をご紹介します。

ひとつめは、高層マンションのリノベーション。中古物件を購入したご家族のために、プランやインテリア、水回りなどの設備を一新したH氏邸だ。ランドリールームや洗面室のカウンター、3つあるトイレなど、さまざまな場所にデュポン™ コーリアン®が使用された。圧巻は、キッチンの隣の空間に設けた、窓下のZ形カウンター収納だ。

「全体との調和を考えて、まずは



3



5



4



2

2_ カウンターの一部分をデスクとして使えるように設計。 3_2 ボウルの洗面化粧台、ランドリーコーナーのカウンターはホワイトトリプル。 4_ 来客用の手洗いは焼き物のボウルと新色ヘーゼルナッツの組み合わせ。 5_ 間接照明との組み合わせも美しいホワイトトリプルのカウンター。〈すべてH氏邸〉

STUDIO KAZ

設計・デザイン
株式会社 STUDIO KAZ
<http://www.studiokaz.com>

家具製作 深津木工株式会社

デュポン™ コーリアン® 加工協力会社
株式会社ハードウェア

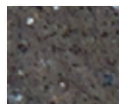
〈使用されたデュポン™ コーリアン®〉



ホワイトトリプル



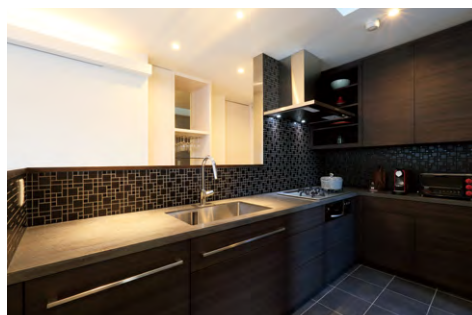
(NEW)ヘーゼルナッツ



ラバロック

素材の質感や、見た目の印象で部材を選んでいますが、これだけの長さ、この形状ですから、マンションの高層階にどうやって搬入するかという点からも、現場施工が可能なデュポン™ コーリアン® が最適でした」と和田氏。

もうひとつは、戸建て住宅のLDKのリフォーム。こちらは、キッチン の天板に「デュポン™ プライベイトコレクション」のラバロックが使われている。「お施主様との打ち合わせで、落ち着いた色合いの雰囲気のある空間にしようという話になり、使用する素材もそれに合うものをひとつひとつ選定しました。デュポン™ プライベイトコレクションは、品のよい高級感と、流れ模様の新鮮さがあっていいですね」と和田氏。全67色の色柄の豊富さや、加工性に優れている点でも、デュポン™ コーリアン® は、イメージした空間をつくりやすい素材であると語ってくださいました。



カウンタートップにラバロックを採用した、シックな雰囲気のA氏邸キッチン。モザイクタイルとの組み合わせも新鮮。



上品な間接照明を中心に落ち着いた色と素材でまとめられ、住宅としての寛ぎ感を大切にデザインされたA氏邸のLDK。



美術館のような住空間になじむ、オリジナルキッチン

◆ 兵庫県・A 氏邸



幅 4440mm のアイランドキッチンは、上から見ると菱形のフォルム。前面にはフローリングと同じウォルナットを貼っている。同じ材を用いることで、空間の一部であるかのように感じさせている。一見シンプルに見えるデザインも、デザイナーのイメージを最大限に生かすよう、mm単位で調節しながらバランスよく設計されている。写真/中村写真工房 中村大輔

兵庫県・A 氏邸

工事種別
戸建て新築

設計
株式会社庄司圭介アトリエ級建築士事務所

家具工事
今井商店

デュポン™ コーリアン® 加工協力会社
マール建材株式会社

〈使用されたデュポン™ コーリアン®〉

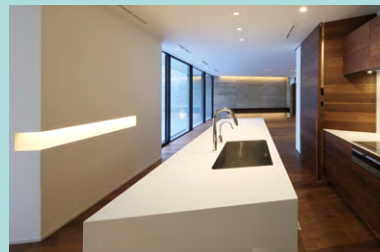
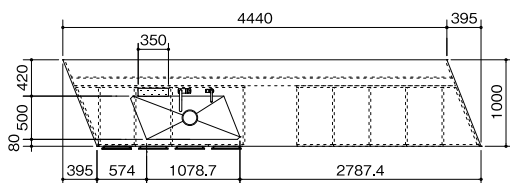


グレイシアホワイト

独創的なデザインとプラン、まるで美術館のような佇まいのA氏邸は、キッチンも個性的だ。「建築家の意図を汲みながら、いかに使いやすく設計するかを大切にしています」と話すのは、A氏邸のキッチンや造作家具などの家具工事を担当した今井商店代表の今井智仁氏。同社では、建築家が描いたイメージを図面に落とし込むと同時に、施工と密に打ち合わせを重ねてキッチンを設計。デザインも使い勝手も世界にひとつのオーダーキッチンを製作している。

「デュポン™ コーリアン® は加工性に優れているので、結果的にロスを少なく製作することができることも利点ですね」と今井氏。これまでに、さまざまなキッチンを製作してきた経験から、デュポン™ コーリアン® は自在な表現が可能な、扱いやすい素材だと感じているそう。「住空間にこだわるように、もっと自由にキッチンにもこだわってほしい」と今井氏。その想いを具現化する素材のひとつが、デュポン™ コーリアン® なのだ。

平面図



LDK入り口に配置されたキッチン。シンク内に洗剤置き場をつくり、ゴミ箱も見えないようにするなど、生活感を出さない工夫も凝らされている。

✓ 施工事例募集

デュポン™ プライベートコレクション(新色)を使用した施工事例を募集しています。詳しくは下記までお問い合わせください。

三鷹レイオン  MRC・デュポン株式会社

<http://www.dupont-corian.net>

本社:〒107-0062 東京都港区南青山1丁目15番9号 第45興和ビル
TEL:(03)5410-8551 FAX:(03)5410-8501



使い込むほどに味わいが増す 無垢材のアイランドキッチン

◆ 丸吉泰道建築設計工房



1_「真っ白」「モダン」といったイメージが強いグレイシアホワイトも、木と組み合わせることでやさしい印象に。 2_洗面室やトイレまで素材を統一。 3_壁面収納はシーンに合わせて、自由に使うことができるデザイン。収納のトップも、植物を置く、パソコンデスク代わりにする、キッチン近くでは調理の作業台として使うなど、さまざまな用途での使用に耐えられる素材という意味で、デュポン™ コーリアン® がぴったりだったという。

丸吉泰道建築設計工房

設計

丸吉泰道建築設計工房

カウンタートップサイズ
2480mm × 900mm

リノベーション工事
有限会社トヨタホームズ

家具工事
山塩木工有限会社

デュポン™ コーリアン® 加工協力会社
だいた産業株式会社

〈使用されたデュポン™ コーリアン®〉

グレイシアホワイト

広島県在住の建築家・丸吉泰道氏のご自宅は、築40年のビルのワンフロアをリノベーションした空間。床にはアッシュの無垢材を敷き、木とホワイトを基調とした、シンブルでやさしい表情のお住まいだ。

玄関を入るとまず、最初に目に飛び込んでくるのがデュポン™ コーリアン® グレイシアホワイトとアッシュの無垢材を組み合わせた造作キッチン。シンブルさを追求したデザインで、水回りというより、家具のような佇まいだ。キッチン背面の壁際に造りつけた収納家具と、同じ高さ、同じ素材に統一されていることもあって、空間に溶け込むようなキッチンだった。

「以前の住まいでも、デュポン™ コーリアン® を使用していました。シンクとカウンターをシームレスにつなげることができたり、これだけ長いカウンターでも継ぎ目を感じさせない素材は、ほかにはないのではないだろうか。メンテナンス性のよさも実感していましたので、今



カウンターとシーム接着で一体化しているシンクはデュポン™ コーリアン® 900J。水栓は、ハンスグローエアクサースタルクコレクション。

回はあらゆる場所に使うかと思いましたが」と丸吉氏。その言葉どおり、キッチンとLDKの収納、そして洗面化粧台、トイレの手洗いまで、デュポン™ コーリアン® グレイシアホワイトが採用されている。

「木との相性もよくて、統一感のある空間になりました」と丸吉氏。「見た目だけではなく、経年に変化したときも、無垢材などの自然素材と同じように、味わいが増すのではないかと期待しています」と、長い目で見た、デュポン™ コーリアン® のよさを、語ってくれた。



こだわりのキッチンも選べる リノベーションで暮らしを豊かに

◆ リノべる。舟入ショールーム



リノべる。舟入ショールーム

所在地
広島県広島市西区東観音町 30-12
コーポブリーリープ 604
www.renoveru.jp

床面積 58㎡

カウンタートップサイズ
2100mm × 750mm

〈使用されたデュポン™ コーリアン®〉

グレイシアホワイト

1_ 白を基調としたシンプルなインテリアによく馴染む、グレイシアホワイトのカウンタートップ。 2&3_ 「デュポン™ コーリアン®」のカウンタートップは、いかにもキッチンという存在感を放つことなく、ファニチャーのように据えることができるので、設計の幅も広がります」と神野氏。

中古マンションを購入して、自分たちの好きな間取りやデザインに変えて住む「リノベーション」が人気だ。新築マンションにするか、分譲住宅か注文住宅か、といった選択だけでなく、「中古&リノベーション」が、住まい選びの新しい選択肢として、認知されはじめています。

「いまはまだ、芽が出たばかりですが、これからますますリノベーションの需要は増えていくと思います」と話してくださったのは、リノべる株式会社 長岡誠也氏。同社は創業5年目ながら、全国に13のショールームを持つ、リノベーション専門会社だ。最大の特徴は、物件探しから、リノベーションのプラン提案、ローンの紹介までをワンストップでサポートしてくれること。間取りは自由で、設備仕様は選択肢の中から選んで決めるセミオーダー制を導入している。

広島市の中心部にほど近い、川沿いのヴィンテージマンションの一室に、同社の舟入ショールームがあった。築38年、約58㎡の部屋を、夫婦2人もしくは子どもが1人の3人家族を想定した間取り、インテリアにリノベーションし、そのままショールームとして使用している。

「60㎡前後というのが、弊社で扱う物件の平均的な広さです。新築マンションと比べて面積が小さい印象ですが、お住まいになる方の暮らし方や要望に合わせて間取りを考えるこ

とができるリノベーションだからこそ、広さをおさえても快適に暮らすことができますし、その結果、住宅購入にかかる金額も下げることができるようです」と長岡氏。

無垢材の床、真っ白なインテリア、可変性のある間取りなど、同社の得意とする要素がすべて盛り込まれた室内で、川に面する窓近く、明るい場所に真っ白なキッチンが置かれていた。「今回は、限られた広さの中で、プランの自由度をあげるため、ミリ単位で調整が可能な造作キッチンを採用しました」と説明してくださったのは、同社のデザイナー、神野和幸氏。システムキッチンと変わらぬ機能性を備えつつ、スタイリッシュに見えて、無垢材の雰囲気にも合う素材ということで、カウンタートップにはデュポン™ コーリアン®を採用されたそう。

「デュポン™ コーリアン®」の独特な質感は、ひとつの強みだと思えます。無垢材などを好む本物志向の方にも自信を持っておすすめしやすいですね。また、耐光性に優れていることや、傷や汚れも取りやすいことなど、長期的にみても安心して使用することができまう」と神野氏。

住む人にとって、必要な条件、好きなものだけを集めた家づくりを提案する同社。こだわりに応えるアイテムのひとつとして、デュポン™ コーリアン®が選ばれていた。



オブジェのように美しく、機能的。 真っ白なハートウォーミング・キッチン

◆ 東京都・K氏邸

滑らかな曲線で構成された独創的なフォルム、無垢の素材から削り出されたかのようなソリッド感。K氏邸のアイランドキッチンは、オーナー自身が、あるキッチンにインスパイアされ、自らデッサンを描いたという、こだわりのキッチンだ。

「彫刻家が、素材の塊から削ぎ落としてつくったような仕上がりに、というご要望を大切にしながら、どこまで忠実に再現できるのか、模型を作って検討しました」と話してくださったのは、K氏邸のキッチンを製作した株式会社モリコーポレーションの西尾俊満氏。

アイランドキッチンの素材に使用されたのは、デュポン™ コーリアン® グレイシアホワイト。天板から側面、そしてカウンターまで継ぎ目なく一体化し、美しくカーブするハートの形状も見事に表現されている。天板から立ち上がるように造作されたカウンターのアーム部分は、加工の難しい三次元の曲線だ。

今回、デュポン™ コーリアン® の加工を担当した大日化成工業株式会社の平澤正嗣社長にもお話をうかがった。「カウンター立ち上がり部分のエッジを山の稜線に見立て、カウ



(右) シンプルなラインで構成されているにもかかわらず、まるで植物のような有機的な造形。顔を近づけてみてもデュポン™ コーリアン® の接合部分を見分けることが難しいほど、美しい仕上がり。カウンターは躯体内のL型アングル3本で支えられているので、強度も十分だ。(左上) ワークスペースとしての動線もきちんと考えられた機能的なキッチン空間。(左下) 食器洗い機やワインセラーも内蔵。

東京都・K氏邸

設計

株式会社リカルド・トッサーニ・アーキテクチャー

キッチン製作

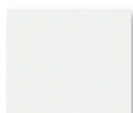
CUCINA クチーナ東京
株式会社モリーコーポレーション

デュポン™ コーリアン® 加工協力
大日化成工業株式会社

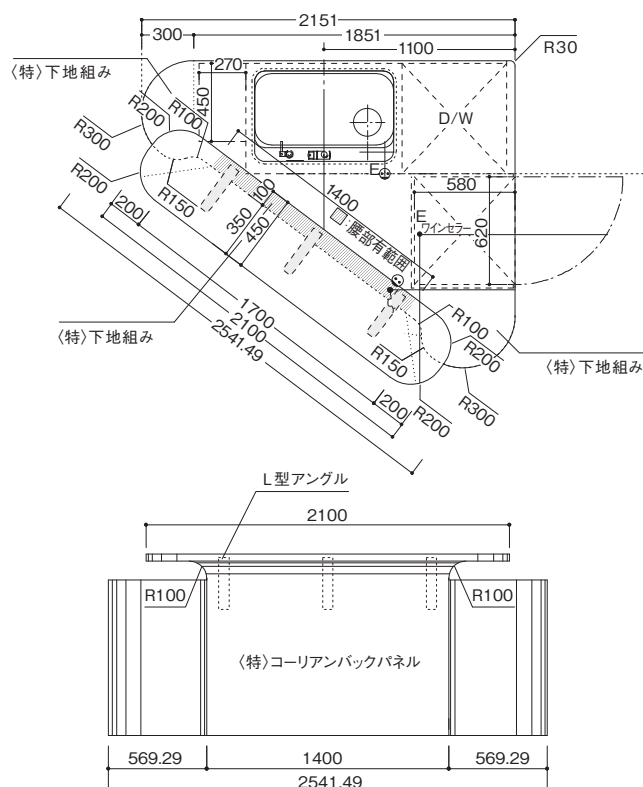
主なキッチン設備機器

水栓：グローエ
食器洗い機：ミール
ワインセラー：ユーロカーブ

〈使用されたデュポン™ コーリアン®〉



グレイシアホワイト



「インター裏の平らな部分へのつながりも自然なラインになるよう心がけました。そうすることで天板からの一体感を強調できたと思います」。固定概念に縛られず、遊び心にあふれたK氏邸のアイランドキッチン

は、オーナーの自由な発想と、その思いを形にしようというつくり手の熱意、そしてデュポン™ コーリアン® という素材の出会いがあったからこそ誕生した、まさに世界に一つの、特別なキッチンといえる。



アンティークに囲まれた夫婦二人の 趣味の家を明るくするキッチン

◆ 山口県・M氏邸

山口県・M氏邸

竣工
2013年10月

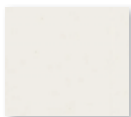
サイズ
3287×910×855mm

デュポン™ コーリアン® 建築家具建材納入
扇産業株式会社

キッチン製作・施工
だいだ産業株式会社



〈使用されたデュポン™ コーリアン®〉



カメオホワイト

(上) 積層材の小口を見せたデザインが印象的な天板。これだけのサイズでも、シームレスなデュポン™ コーリアン®なら手入れもしやすい。「汚れはさっと拭くだけですぐにきれいに。手軽なのがいいですね」とM氏。



シンクの左下は出し入れしやすいフリースペースに。



ナチュラルテイストに、ビビッドな赤がアクセントに。

江戸時代から商都として繁栄した柳井市の駅のほど近く。施主であるM氏がこだわったのは、お洒落なカフェのようであり、使い勝手の良い家だ。もともと、築100年は経っているという、祖父が建てた洋館に住んでいたM氏。しかし、子どもの独立を機に、最後の生活を考えた。高価な場所を個性で断熱性の高い家を建て住み替えることにした。1階は吹き抜けのリビングとそれに続く3畳の和室と水回り、2階は夫婦それぞれの居室と趣味の部屋、というほどよいサイズの家には、以前の家にあった質のよいアンティークがあちこちに飾られている。そのリビングで、ひととき存在感を放つキッチンの天板が、デュポン™ コーリアン®のカメオホワイトだ。「小物が多い家だから、キッチン

くらいは大きく大胆にしたい。でも、無機質な冷たい雰囲気にはしたくなかった。そこで、コーリアン®に積層合板を貼って、木口を敢えて見せ、幅3287mmのシームレスな天板を作ってもらいました」
M氏が以前見たというデンマーク製のバーチカウンターをイメージして作った天板は、木目が見えることによって、ナチュラルテイストな家の雰囲気にとりつきりとなじむ。910mmと広めにとった奥行きは、食事の支度をするのに便利で、来客が多い時にはテーブルカウンターとしても利用することが可能だ。
長期の休みには、娘夫婦が遊びにくることも多いというM氏邸。趣味の良い二人の家は、キッチンを中心に賑やかな声に包まれることだろう。



瀬戸内の海を眺める二階ダイニングに ふんわりと浮かぶような白いキッチン

◆ 広島県・Y氏邸



(上) 真っ白なアイランドキッチンの足下を浮かせた「フロートスタイルキッチン」。「ほんの少し、床との間に空間をつくることで、キッチンの存在感が軽くなります。こうすることで、部屋全体が広く見えることを狙いました」と代田氏。(右下) コーリアンの天板の白に合わせ、ハンドルレス扉の収納も冴える白をセレクト。(左下)「白は料理を映えさせる色。食事づくりが楽しくなります」と奥様。

広島県・Y氏邸

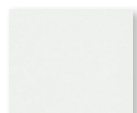
竣工
2013年11月

サイズ
2300×700×850mm

建築設計・施工
中村建設株式会社

キッチン製作・施工
だいだ産業株式会社

〈使用されたデュポン™ コーリアン®〉



グレイシアホワイト

宮島へのフェリー航路や牡蠣の養殖場を眼下に望む、高台の二世帯の家。「壁や天井は可能な限り広く、そして床はダークオークに統一しました」というY氏。建築家とともに建てたその住まいは、ダイニングキッチンがそれぞれの居室への入り口にもなっており、家族の時間を繋いでいる。そのダイニングの中心に、デュポン™ コーリアン®のキッチンを選んだ。

「Y様からいただいたオーダーは、白とダークオークのインテリアにじっくりなじむキッチンをつくって欲しいという一点。コーリアン®の中でも、どこまでも白いグレイシアホワイトは、Y様邸の都会的な空間にぴったりだと思いました」と語るのは今回キッチンの製作および施工を行った、だいだ産業の代田和良氏。長年、デュポン™ コーリアン®の加工やキッチンの製作・施工に関わってきた代田氏は、施工担当からみたコーリアンの魅力をこう語る。

「まず、加工しやすいこと。オーダーキッチンには、施工する空間だけでなく、施主ご家族様の使い方、住まい方まで考えて、1mm単位で設計します。コーリアン®はその細かい設計にも応えるポテンシャルがあります。また、人工大理石というと、化学的なイメージを持たれますが、加工していてもケミカルな臭いがまったくないのも魅力のひとつ。長く使うものですから、良いものを使っていたきたい。その点、コーリアンは自信を持っておすすめできます」。施主・製作者それぞれがこだわってつくったキッチンは、これから家族の真ん中で活躍することだろう。



住まいの中心にあるインテリアとして、 家族の集う場所となるキッチンを提案

◆ クチーナ 代官山ショールーム

昭和12年創業の造作家具店に由来を持ち、30年以上にわたって、上質で日本人が使いやすいキッチンを提案しつづけてきた老舗メーカーの「CUCINA（クチーナ）」。「静岡県・浜松で一貫生産される同社のキッチンは、造作家具の技術とノウハウを生かしてつくられるフルオーダーシステム。手間を惜しむことなく丁寧に仕上げられる品質の高さが魅力のひとつだ。また、キッチンは単に料理をつくる場所だけではなく、「料理を楽しむ、家族がコミュニケーションを深めるスペース」であるべきと考える同社は、住まいの中心となるインテリア性の高いキッチンと、キッチンから広がるトータルインテリアの提案も得意としている。

「お客様一人ひとりのライフスタイルや好みにあわせて、キッチンの形やサイズ、扉やカウンターの素材を決めていきます。デュポン™ コーリアン®をカウンタートップに採用する場合は、自然な模様の入ったプライベートコレクションをご提案することも多いです。天然素材のような風合いと高級感をあわせ持つコーリアン®は、本物志向の高いお客様にもご満足いただいて



(右) 代官山ショールームは、旧山手通り沿いのビルの3フロアを使って多彩なキッチン空間を提案。地下1階の吹き抜け空間には、ダイニングテーブル部分にシラスホワイトを用いたキッチンが鎮座している。(上) 扉材はファブリックのようなやわらかい表情を持つ「Quilt」。(左下) ウィッチヘーゼルのハイカウンターと組み合わせたタイプも同フロアに展示。

クチーナ 代官山ショールーム

所在地
東京都渋谷区鉢山町 15-1
TEL.03-3496-1003
<http://cucinastyle.jp/>

〈使用されたデュポン™ コーリアン®〉



シラスホワイト



ウィッチヘーゼル

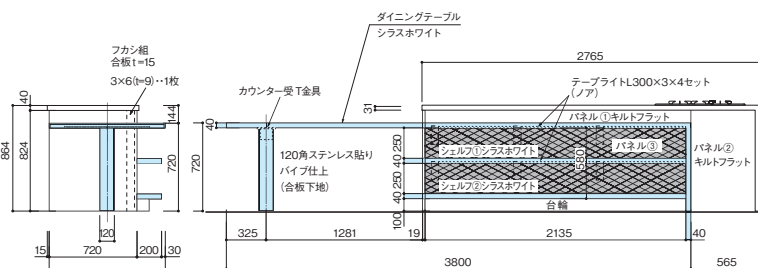


株式会社
モーリコーポレーション
馬場 雅雄氏

います」と話してください。代官山ショールームを運営する株式会社モーリコーポレーションの馬場雅雄氏。

扉材は80種類をラインナップし、さらに微妙な色合いや仕上げの要望にも対応。カウンタートップには、カラーバリエーションの豊富なコーリアン® など様々な素材を採用することで、組み合わせは無限に広がる。選択肢の多さは、インテリアとのコーディネートにより高次元でかなえる大切な要素だ。

現在、代官山ショールームの地下1階のメインスペースには、コーリアン® シラスホワイトのダイニングテーブルと一体となったアイランドキッチンが置かれている。ぜひ、ショールームを訪れて、クチーナの提案する上質な空間とともに、コーリアン® の手触りや風合いを体感していただきたい。



キッチン立面図



継ぎ目のないアイランドキッチンが ショールームの主役に

◆ フォレオリフォーム



(上) キッチンシンクと天板との一体化はコーリアン®の真骨頂。指紋などがつきにくいよう、カウンター天板はつや消しに仕上げた。(右上) 収納や食器洗い乾燥機など、キッチンに必要なものはすべて組み込み済み。(右下) 黒の強化ガラスとのコントラストも美しい。



使用された
デュポン™コーリアン®

グレイシアホワイト
キッチンシンク 900J

フォレオリフォーム

所在地
広島県広島市東区温品 1-3-2
フォレオ広島東 S 棟 2140 区画

事業主
有限会社アクティブコーポレーション

<http://www.foleo-reform.com/>

協力会社 だいだ産業株式会社

広島駅から東に車で10分のショッ
ピングランド「フォレオ広島東」の
2階にある「フォレオリフォーム」
は、リフォームだけでなくオリジナル
キッチンの製作も行っている。今回、
ショールームにデュポン™コーリア
ン®を採用したアイランドキッチンが
あると聞き、話を伺った。「ショール
ームには、通りがかりの人を呼び込
む力のあるアイテムが必要です。その
点、コーリアンはぴったりでしたね」
と代表取締役の宮森英成氏。コー
リアン®を選んだ理由とは何だろ
うか? 「まず、シームレスの機能美。
シンク(900J)と天板の継ぎ目の
なさは、ほとんどの人が感動します。
汚れや傷に強い点も大きなメリッ
トです」。このキッチンを見て、飛び
込みで店を訪れる人も多いという。
宮森氏の戦略は大成功と言えそう



合併
事業

MRC・デュポン株式会社

URL: <http://www.dupont-corian.net>

本社: 〒107-0062 東京都港区南青山1丁目15番9号 第45興和ビル
TEL: (03) 5410-8551 FAX: (03) 5410-8501

集合住宅の新しいかたち 多目的に使えるミニマルなキッチン

◆トレフォルム



住む人が変わっても 自分らしく装える空間に

3人の建築家の設計による、個性豊かな3つの建築で構成された集合賃貸住宅「トレフォルム」が、

今年3月、東京・豊島区に誕生した。

設計を手がけたのは千葉孝氏、小川晋一氏、西沢立衛氏。W棟、N棟、

E棟からなる建物は、各棟ごとに

外観フォルムも内部の間取りも、すべてが異なる仕上がりになっている。

「階高をそろえるということ以外、

デザイン上の制約はほとんどありませんでした」と話してくださいだった

のは、N棟を手がけた小川晋一氏。

N棟は全戸北向きだが、想像以上の明るさと開放感が特長だ。すべて

の部屋にバルコニーが設けられ、ガラスの大きな開口が内と外を一体的につないでいる。白で統一された室内は、限りなく余分なものをそぎ落としたミニマルな空間だ。

「住む人が自由に自分らしい空間をつくれるように、全体をニュートラルな白で統一しています。住人が

変われば、部屋も衣替えするようなイメージですね」と小川氏。

N棟では全戸のキッチンにデュ

ポン™ コーリアン® が採用された。ほぼ壁幅いっぱいには造りつけられ

たキッチンカウンターのサイズは、

部屋の広さによって異なるが、一番広い部屋では10mを超える。

「キッチンと洗面、ダイニングテー

ブルやワークスペースなど、多目的

に使えるカウンターとして設計しました。ただし、あくまでカウンターは脇役。色や模様のある素材を使うと、それ自体が主役になってしまうので、最もニュートラルだと感じるグレイシアホワイトを使っています」という小川氏。これまでも、

住宅作品などでたびたびデュポン™ コーリアン® を採用されているが、

その理由をお聞きした。

「長いカウンターなどでも目地を消すことができて、メンテナンス性がよいことがまずひとつ。特に賃貸

では、長い間きれいに保てる素材であることは大切です。それから、中

まで無垢な素材感、マットな感じも好きです。特にグレイシアホワイト

などのソリッドカラーは、石でも

なく、石を真似ているのでもなく、

先進的でオリジナリティのある魅力

的な素材だと思っていますね」。

Treform / トレフォルム

所在地 東京都豊島区南大塚 2-17-3

構造・規模 鉄筋コンクリート造 地上5階地下1階建

竣工 2012年3月

総戸数 101戸(うちN棟26戸)

専有面積 約24m²～67m²

設計

豊島区南大塚2丁目PJ設計共同企業体
・千葉学建築計画事務所
・小川晋一都市建築設計事務所
・西沢立衛建築設計事務所

施工 安藤建設株式会社

企画

株式会社タカギプランニングオフィス

デュポン™ コーリアン® 加工会社
株式会社エイベクス

使用された
デュポン™ コーリアン®



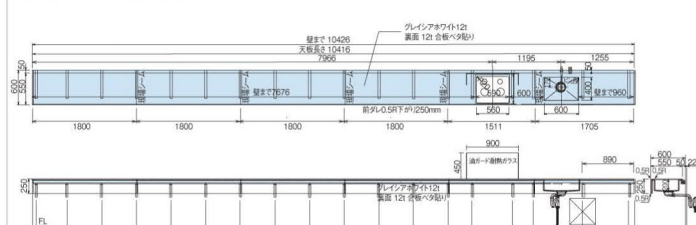
グレイシアホワイト

(右) 最上階は、すべての居室が広い屋外テラスに面した細長い間取りに。日影規制を逆手にとったプランだ。壁との間に仕込まれた蛍光灯に照らされて、左右に長く伸びたカウンターが美しく浮かび上がる様子をテラスから眺めたところ。

(右下) 小川晋一氏。小川晋一都市建築設計事務所主宰。近畿大学工学部建築学科教授。日本大学芸術学部非常勤講師。英国エジンバラ芸術大学建築学科客員教授。



〈5階カウンター施工図〉



屋内と屋外をつなぐ“ミッドテリア”で 自然と調和した暮らしを楽しむキッチン

【第42回 東京モーターショー2011 LIXILブース】



人と環境に優しい素材で
おもてなしの心を表現

最先端の新車や未来の自動車技術が一堂に会する、第42回東京モーターショー2011が、昨年12月3日から12月11日まで、東京ビッグサイトで開催された。今回注目を集めたのは、やはり電気自動車、燃料電池自動車、ハイブリッド車といった最新のエコカー。また、新しい主催者テーマ事業として行われた“SMART MOBILITY CITY 2011”では、自動車関連企業のみならず、エネルギー、環境、情報通信、さらに住宅関連企業なども参加して、次世代の自動車とそれを取り巻く人や環境に優しい未来社会をイメージさせる展示が行われた。そんな中、住宅設備機器・建材メーカーでは初出展となる株式会社リー・エールのブースに、デュポン™ コーリアン®を採用したキッチンが展示された。

「リー・エールでは、いのちもくるまも集う家をコンセプトに展示を行っています。具体的には、インテリアとエクステリアの中間である“ミッドテリア”という空間を提案し、そこに家具のような電気自動車

や木製自転車といった人にやさしいモビリティを置き、地球と調和する新しい暮らしのスタイルを提案しています」と、会場を案内してくださった株式会社リー・エール広報部の河合慎太郎氏。

会場内につくりだされたミッドテリア空間は、屋根には雨や雪をしのぎつつ明るさを損なわない素材、壁には風や光をコントロールできる可動ルーバーを用い、床面は土と木を組み合わせたハイブリッド・タイルで構成されていた。英国住宅のコンサバトリ、日本家の土間空間のようなスペースだ。そこに幅広の縁側とテーブルがあり、ミッドテリア用に開発された特別なキッチンも設置されていた。

「こちらのキッチンは、自然を身近に感じながら、自分たちで育てた食材を調理できる場所としてブランドニングされています」と説明してくださったのは、株式会社リー・エールのキッチン・洗面商品開発担当の高久秀之氏。通常のキッチンと大きく違う点は、小さささまざまな形で深さも用途にあわせて設計された4つのシンクを備えているところ。

「一番大きなシンクは深さが9cmと浅く、作業スペースとしても使

[第42回
東京モーターショー2011
LIXILブース]

開催期間
2011年12月3日(土)～12月11日(日)

会場
東京ビッグサイト

主催
一般社団法人日本自動車工業会

出展者
株式会社 LIXIL

キッチン製作
株式会社 LIXIL

デュポン™ コーリアン®加工施工協力
大日化成工業株式会社



使用された
デュポン™ コーリアン®



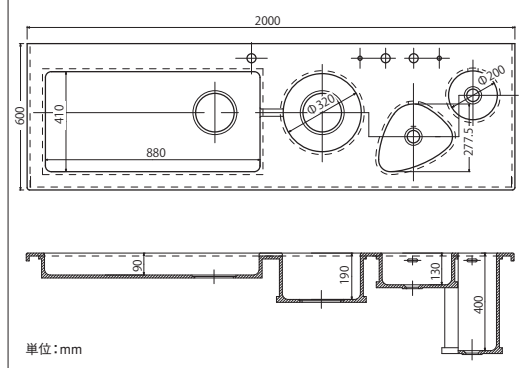
グレイシアホワイト

▲ 一番奥の広いシンクは、収穫した野菜の泥を落としたり、釣ってきた魚を捌く際にも、前かがみにならずにすみ、腰に負担をかけずに作業スペースとして使えるようにと、深さを9cmに抑えている。中央の丸いシンクはスイカなどの果物を冷やすにもちょうどよい大きさ。手前の三角形のシンクは手洗い用。

▶ 木製ルーバーで囲まれたミッドテリアの一角に設けられたキッチン。キャビネットを直接地面に設置せず、さらに内部の底面をメッシュにすることで、庭仕事の道具などを濡れたまま収納したり、キッチン自体を水洗いすることも可能にしている。こうした機能だけでなく、素材選びや光の演出によってインテリア性のある、美しい仕上がりに。



〈カウンタートップ 図面〉



いやすく設計しました。ちなみに、通常のキッチンならシンクの深さは18〜22cmです。一番深い40cmのシンクは、大ぶりの切り花や枝などを生けることもできます」。

また、半屋外に設置するため、構造は金属製フレーム、パネル部は防虫・防腐効果を高めたEDS竹材ルーバーを用いて通気性を確保。カウンタートップにはデュポン™ コーリアン® が用いられている。「ミッドテリア用のキッチンということで、素材の条件として高耐久であることが第一でした。また、汚れがたまりやすい半屋外ではシンクとカウンタートップを一体化できることも必須です。劣化しないという点では、ステンレスも優れていますが、

一度ついた傷がとりにくいことを考えると、メンテナンスをしながらかく美しく使えるデュポン™ コーリアン® がよいと考えました」。

さらに、ミッドテリアは、交流や憩いの場として位置付けられているため、キッチンは「床の間」としての役割も担っている。花や木を飾ったり、果物を冷やしておいたり、おもてなしの心を表現する場所でもある。「ですから、あまり業務厨房的ではなく、人に優しい素材を選びました」と高久氏。水回りの設備としての機能を備えつつ、インテリアとしても長く、美しく。ミッドテリアのためのキッチンに求められた条件は、そのままデュポン™ コーリアン® の特長でもあった。

デザイナーとのコラボレーションで 広島から世界へ羽ばたく日本の家具づくり

[MARUNI COLLECTION Lightwood ダイニングテーブル]



写真撮影／ナカサ&パートナーズ ©株式会社マルニ木工



写真撮影／川部米広 ©株式会社マルニ木工

ミラノサローネでも注目の 新シリーズが誕生

2011年4月のミラノサローネ国際家具見本市に出品され好評を博した株式会社マルニ木工の「MARUNI COLLECTION 2011」が世界で注目を集めている。同コレクションは、2008年にマルニ木工がデザイナーの深澤直人氏と共に立ち上げたプロジェクトだ。同年発表された「HIROSHIMA」シリーズのアームチェアはイギリス、フランス、ドイツなど主要20カ国で展開される商品となっている。2011年の新作として発表されたのは、新しくデザイナーとして加わったジャスパー・モリソン氏による「Roundish」シリーズと深澤氏による「Roundish」シリーズのダイニングテーブルの天板にデュポン™

コーリアン®が採用されている。

「Lightwood」シリーズの特長はその軽さだ。余計な部品を排除し、極限まで絞り込んだ美しいフォルムは、まるで彫刻作品のよう。こうした職人技でなければ再現しにくい繊細なデザインが可能であるのも、80年以上の歴史を持つ老舗家具メーカーの技術力があってこそ。同社は創業当時から「工芸の工業化」を掲げ、独自に加工機械を開発するなど「職人の手によらない分業による家具づくり、量産化」に取り組んできた。「Lightwood」シリーズは、そうして培われた同社の技術力を最大限に活かすべくデザインされた。また、チェアの座面素材やボディカラーを選ぶことも特長のひとつ。ダイニングテーブルの天板もメーブル突板とデュポン™コーリアン®から選ぶことができる。

「天板に関しては、モリソン氏から

デュポン™コーリアン®をラインナップに入れたいと要望がありました」と話してくださったのは、株式会社マルニ木工営業企画部の大山こすえ氏。

モリソン氏によると、「コーリアン®は美しく、とても実用的な素材だ」といつも思っていました。木材と組み合わせた多くのキッチンカウンターの設計でも使ってきました。今回、「Lightwood table」をデザインするにあたり、コーリアン®を組み合わせることで新しさを持たせようと考えたのです。異なる素材の対比がとても面白いと感じています」とのこと。カラーは、モリソン氏がよく採用するというカメオホワイト。「コーリアン®の中で最も美しく、目にも優しく、白過ぎず、コーリアン®を最も良く見せる深い表情を持っているからです」とその理由を説明してくださった。

海外展開を視野に入れ サイズ、素材を選定

「コーリアン®を採用するにあたり一番の問題はサイズでした。海外のディーラーからはダイニングテーブルの奥行きは800〜900mmでないと売りにくいと言われていました。コーリアン®はシート接着もできますが、今回は構造上、強度を保つためには原板のまま使用しなければなりません。いくつかの条件を満たすことで特注サイズに対応してもらえたことになったので、実現が可能になりました」とおっしゃるのは、開発部の川上敏宏氏。しかし同社で本格的にコーリアン®を扱うのは今回がほぼはじめて。デザインの再現が技術的に可能か、生産性を落とさずに木とは異なる素材をいかにラインの中に組み込んでいくかなど、さま



株式会社マルニ木工
開発部 川上敏宏氏(左)と
営業企画部 大山こすえ氏(右)

ざまな課題をクリアするのに1年半をかけたという。「新しい取り組みだけに、製品化は慎重に行いました」と川上氏。だが、今回得たノウハウを活かしつつ、今後の製品展開にもコーリアン®を採り入れる可能性が広がったという。大山氏も「木部との接着という課題がクリアできたということも大きいのですが、素材としてメンテナンス性と丈夫さがある点も魅力ですね。また、実際に各国で展示を行ってみて、海外でのデュポン™コーリアン®の認知度の高さもあらためて実感できました」と語ってくださいました。

「MARUNI COLLECTION Lightwood ダイニングテーブル」

デザイン ジャスパー・モリソン

製作 株式会社マルニ木工
<http://www.maruni.com>

サイズ・価格

※パーチ/ナチュラル×コーリアン®の場合

<ダイニングテーブル 130>
W1,300×D800×H710 (mm)
¥292,000

<ダイニングテーブル 180>
W1,800×D900×H710 (mm)
¥320,000

<ダイニングテーブル 240>
W2,400×D900×H710 (mm)
¥350,000
ほか

問い合わせ
TEL.03-5614-6598

使用された
デュポン™コーリアン®



カメオホワイト



Portrait of Jasper Morrison 2011
Photo Credit: Kento Mori

ジャスパー・モリソン氏

1959年ロンドン生まれ。キングストン美術学校、RCA 王立美術大学を卒業後、ベルリンHdKで学び、86年にはロンドンにデザインオフィスを構える。Jasper Morrison Ltd. は現在ロンドンに本社を構え、2002年にパリ、07年には東京に支社を開設。活動は幅広く、家具、食器、キッチン用品、照明、電化製品のデザイン、公共空間のデザイン、近年では腕時計、時計や靴も手がけている。05年、深澤直人氏と Super Normal プロジェクトを設立し、06年に初めての Super Normal 展を東京で開催。09年、Jasper Morrison Limited Shopがロンドンでオープン。11年にはオンラインショップ (www.jaspermorrison.com/shop/) を立ち上げる。

海へ向かう船のような楽しい住まいの どこまでも続く純白のキッチン

「神奈川県・M氏邸」



「神奈川県・M氏邸」

敷地面積
112㎡

延床面積
66.86㎡

竣工
2011年7月

設計
有限会社スタジオ2アーキテツ

主なキッチン設備機器
シンク／デュボン™ コーリアン®
水栓／Grohe
コンロ／Rinnai
換気扇／Double

使用された
デュボン™ コーリアン®



ミルキーホワイト

漁港の中に位置するM氏邸。窓の外には漁師が道具をしまう小屋が並び、サーフボードを抱えて歩く若者たちが通り過ぎていく。そんなのどかな風景が広がっている。

「海が気持ちよく望めて、光がいっぱい入る家にしたと思っていました」とM氏。建築家と共に建てたその住まいは、奥行きのある敷地の形状を活かした設計で、まるで海

に向かって出港を待つ、大きな船の中にいるような気持ちにさせてくれる。中二階に位置するキッチンスペースは、吹き抜けの高窓から光が射し込む気持ちよい空間。足下を浮かせた壁付の真っ白なキッチンは、余計な装飾のないシンプルなデザイン。大きなシンクとガスコンロがなければ、インテリアとしてしつらえた収納家具のようにも見える。

「かなり長いキッチンを作りましたので、当然、カウンタートップの

途中でつなぎ目ができることは覚悟していました。ところが、施工後に確認してみると、接合部のつなぎ目が、まったくわからないので、うまい事やるもんだな」と、感心しました。あとでお話をうかがったら、シームレスな仕上がりも、デュボン™ コーリアン®のセールスポイントなんだですね」とM氏。

作業スペースもゆったりと取り、空間いっぱい伸びた幅の広いカウンタートップの素材は、デュボン™ コーリアン®ミルキーホワイトだ。

「定期的に表面をさつと磨くだけで、新しくきれいな表面に生まれかわるので、気持ちよく、お手入れのしがいがあります。手間がかからないのもうれしいですね」と奥様。自宅に遊びに来た友人たちにも、いつもきれいなキッチントップを維持できる喜びを、話してくださっているそう。



制約を魅力に変える“白”のマジック。 住まいを明るく照らすキッチン空間

「麻布台の家」



「麻布台の家」

改装面積
150㎡

改装竣工
2012年2月

設計
石川素樹建築設計事務所

施工
エー・クラフト株式会社

キッチン製作
エー・クラフト株式会社

主なキッチン設備機器
水栓／TOTO
コンロ／Panasonic
食洗機／Panasonic

デュポン™ コーリアン®加工協力会社
大日化成工業株式会社

使用された
デュポン™ コーリアン®



グレイシアホワイト

東京タワーを望むオフィスビルの最上階。結婚を間近に控えた二人のために、全面的な改装を終えたばかりの「麻布台の家」にうかがった。もともと、ご主人のご家族の住居として使用されていた場所ではあったが、築30年以上という時間と共に経年劣化が進み、また、度重なる改装により、施工精度の問題も抱えていたという。

「今回は建物そのもののダメージを回復すること、この先、長く快適に暮らしていただくための断熱・防音処理を施すなど、住居としての基本性能を戻すことを中心に計画しました」と説明してくださいしたのは、改装の設計を手がけた石川素樹氏。課題となったのは、リビングへの採光と眺望が最も期待できる東側の窓が十分な大きさではなく、さらにその場所には閉じられたキッチンが配置されていたことだった。

「解決策として、キッチンを明るくオープンな空間とすることで、LDK全体に光を届けようと考えました」と石川氏。そこで、全体を白で統一しながらも、壁面にはメラミンやレンガブリック、キッチンカウンターにはデュポン™ コーリアン® グレイシアホワイトと、さまざまな素材を採用。その

結果、異なる質感の素材がそれぞれ、窓から入る自然光をやわらかく反射して、光量以上の明るさを感じさせつつ、美しい陰影をつくる空間が完成した。

「コーリアン®のカラーについては落ち着きのあるきれいな光を反射するグレイシアホワイトを選びました」と石川氏。

すべてオーダーで製作されたキッチンは、機器類をIHヒーターなど最低限のものに絞り、カトラリーやライザーなどの調理に必要な要素を充実させた機能的でミニマムなデザイン。収納部分は、塗膜を感じさせないマットな仕上げを施したナラ突板の面材に、天板と同じ厚みの手掛けとするなど、すみずみまでこだわりを感じる端正な仕上がりだ。全体の形状は壁付のL字形キッチンと、対面式のI字形キッチンを組み合わせ、ゆったりとした構成。「ご親戚やご友人が遊びにいらつしゃることも多いとうかがっていたので、使い勝手を考えて、オープンだけど丸見えにはならないスタイルと大人数で使えるサイズをご提案しました」と石川氏。

オーナー夫妻の結婚式のあとにはお祝いをかねて、明るく、居心地のよいこのキッチンに、たくさんの方が集うことだろう。

コンパクトマンションのリフォームが変わる。 もっと手軽に、センスよく

[Re-COA / パナソニック電工]



[Re-COA]

発売元
パナソニック電工株式会社
集合住宅事業推進部
パナソニック電工集合住宅
ソリューション株式会社

<http://sumai.panasonic.jp/>

ショールーム
東京都港区東新橋1丁目5番1号
パナソニック電工ビル
ほか

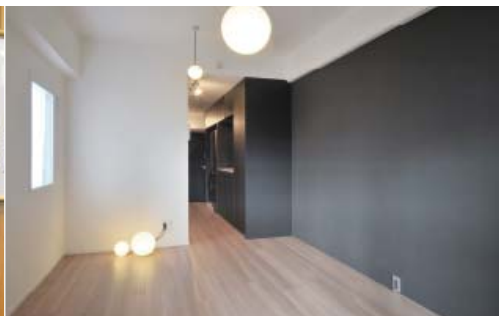
使用された
デュポン™ コーリアン®



グレイシアホワイト



▲左からパナソニック電工株式会社の福井博氏、河村晃宏氏、細川淳一氏、AIUEO STUDIO 株式会社の佐々木純也氏。



▲ワンルームタイプのモデルルームは黒が基調色。キッチンと洗濯機、冷蔵庫が壁面収納のようにすっきり収まっている。

単なる設備の入れ替えではなく、価値を転換

パナソニック電工がコンパクトマンションのリフォームバック「Re・COA（リ・コア）」を発表。2010年度グッドデザイン賞を受賞した、これまでにない新しいリフォーム提案だ。

「Re・COA」の考え方のもとになったのは、2006年に開発した「i・X（イクス）シリーズ」という集合住宅向けのユニットバス。余計なものをなくし、浴室をシンプルで上質な空間としてつくりあげました。今回は、それを部屋全体で表現したいというところから発想しています」と話してください。これは、パナソニック電工株式会社集合住宅事業推進部の河村晃宏氏。デザイナーズマンションなどでのぞき、一般的なマンションの新築

やリフォームの場合、ひと部屋に用いる設備すべてを同じメーカーでそろえるケースは多くない。価格が優先され、デザインの統一性などは重要視されない傾向にある。だが「Re・COA」は、専用の設備の開発から、プランニング、アフターメンテナンスまでをパックにすることで、デザインが統一されたセンスのよい空間を実現しやすくなった。「Re・COA」は、まず完成した空間をイメージして、その空間にあわせて、設備の一つひとつ、もつと言えど部品のひとつまでをデザインしています。だから、余計なものがなく、完成度の高い空間になるのです」とは、デザイン開発センターの福井博氏。キッチンについては、「キッチンらしく見えないデザイン」をめざしたという。「コンパクトマンションを対象にしていますので、部屋に居れば、常にキッチンが見え

てしまう。だからこそ、壁のように見せたいと考えました」と河村氏。そういった理由から、カウンタートップにはインテリアと馴染みやすい人工大理石を採用。東京・初台にあるモデルルームでは、デュポン™ コーリアン®のグレイシアホワイトが使用された。

めざしたのは“ちょうどいい白”

「Re・COA」の基調色は白または黒。さまざまな素材の「色味」を合わせることで統一感を生み出しているという。例えば、白なら、黄色や青みが強すぎず、かといって白すぎもせず、住む人に緊張感を与えず、そして、ほどよい白をめざしました。そういう意味で、グレイシアホワイトはちょうどいい白ですね」と福井氏。「Re・COA」のプロジェクトに、コンサルティングとして関わるAIUEO STUDIO 株式会社代表取締役の佐々木純也氏は「デザイナー的にも、小口をそのまま見せてシャープに仕上げることでできる点などが「Re・COA」のデザインコンセプトにあっていると思います」と語ってください。

「Re-COA」／リフォーム自体を製品と捉え、商品開発から提案・設計、実施施工・アフターサービスまでをワンストップで提供。一貫したデザイン思想で統制され、専用に開発された住宅設備・建材を用いることで、均質でデザイン性の高い住空間を、手軽に実現できるというもの。水回りを集約して配置（コア化）することで、部屋を広くする工夫も特長。リフォームを、単に設備の入れ替えではなく、新しい価値を生み出す工程と位置づけている。



忙しい毎日を、美しく生きる女性たちへ。 自分だけの時間を楽しむメイクカウンター

[ダイワハウス ビューティーセトン]



[ダイワハウス ビューティーセトン]

サイズ

W 1,298.5×D 511×H 1469(mm)

設計・デザイン

大和ハウス工業株式会社

お問い合わせ

大和ハウス工業株式会社

TEL:06-6342-1300

<http://www.daiwahouse.co.jp/jutaku/lifestyle/cocoom/>

デュポン™ コーリアン® 加工会社

シンコー建材株式会社

使用された
デュポン™ コーリアン®



グレイシアホワイト



▲肌色を自然に見せる白を基調にコーディネート。鏡と座位位置の間隔はメーカーのしやすい約30cmに設定されている。



▲汚れた手もその場で洗える便利な水栓付き。ボウルとカウンターを一体化することで、機能性でありながらすっきりしたデザインに。

2011年1月、ダイワハウスから、女性のための住空間「コクームスペース」が誕生。「女性には、自分を愛する場所がある。」というコンセプトのもと、機能性、快適性を追求したメイクやスキンケア専用のスペースで、ダイワハウスとスキンケアブランド「SK-II」とのコラボレーションで開発された。

「女性のための空間というものが、これまでの住宅提案には欠けていました。コクームスペースは、アクティブな女性をターゲットにした、新しい提案です」と話してくださいしたのは、大和ハウス工業株式会社技術本部住宅商品開発部の渡壁登氏。コクームスペースの中心となるメイクカウンター「ビューティーセトン」の開発責任者だ。また、女性目線を大切にデザインや使い心地を追求するため、「ビューティーセトン」の設計は、住宅商品開発部の濱崎真由子氏が担当した。「忙しい女性のために、効率よく、心地よくメイクができる環境をつくりたいと考えました。メイクをすることで気持ちをアップさせる空間であり、同時に、仕事も家事も離れて、癒しを得られる空間にもなるように計画しました」と濱崎氏。そのため、メイクカウンターをベニンシラとして部屋の中央に配置し空間を二つに分けることで、オンとオフ、それぞれの時間を持つことができる場所とした。

オリジナルメイクカウンター「ビューティーセトン」は、こだわりの照明や鏡、収納のほか、汚れた手をすぐ洗える水栓も備え、細部まで工夫を尽くしたデザイン。そのカウンタートップにデュポン™ コーリアン® グレイシアホワイトが採用された。

「女性らしいやわらかいデザインを実現できる加工性のよさに加え、レフ板効果のあるカウンターにと考えていましたので、照明に對しての反射の仕方などの点でも、コーリアン® がベストと判断しました」と渡壁氏。

「人工大理石というと、冷たい印象があったのですが、触ってみると、しっとりとした感じが女性向きだと思いました。溝などができずにシームレスに洗面ボウルとカウンターを一体化できるなど、清掃性がよい点にも魅力を感じました」と濱崎氏。

なお、「コクームスペース」が標準採用されている共働き夫婦をターゲットとする戸建住宅新商品「ジーヴォC L E V A」のモデルハウスは全国で順次オープン予定だ。ぜひ一度、実物をご覧ください。



▲コクームスペースのプラン例。家族の気配を感じつつ、独立性も保つためドアを設けないなど、設計提案にも細やかな工夫がある。



▲鏡のすぐ下に設けた引き出しは天板にガラス素材を採用。お気に入りのスキンケアアイテムをディスプレイするように収納できる。



▲左から大和ハウス工業株式会社の渡壁登氏、濱崎真由子氏、松岡洋氏、シンコー建材株式会社の中西正典氏。

[賀川 東京ショールーム]

所在地
東京都品川区東五反田 5-25-19
東京デザインセンター 2F
TEL: 03-6450-3026

<http://www.kaguawa.jp>

サイズ
W 3,300 × D 1,050 × H 850 (mm)

主な設備
水栓/グローエ
IH クッキングヒーター/カゲナウ

使用された
デュポン™ コーリアン®



グレイシアホワイト



ノクターン



家族が集うキッチンが暮らしの中心にある 住まい空間をトータル提案

「賀川 東京ショールーム」

▲キッチンとダイニングテーブルを一体化させたスタイルは、「料理をする」「盛りつける」「食べる」といったさまざまなシーンをスムーズにつなぐ機能的な住空間の提案。ダイニングテーブルも含めた概算価格は約 244 万円。



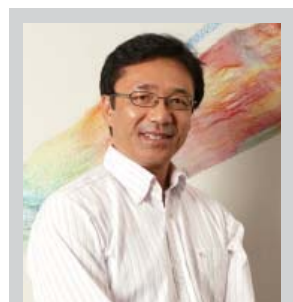
通常ならデッドスペースになる段差も引き出しに。三層にしたデュポン™ コーリアン® の緻密な合わせに職人の高い技術を感じる。

「コーリアン® は 20 年以上前から採用しています。長年にわたる信頼感と、扱いやすさ、メンテナンスのしやすさなどの理由から、ショールームのキッチンにも使用しました」と

「コーリアン® は 20 年以上前から採用しています。長年にわたる信頼感と、扱いやすさ、メンテナンスのしやすさなどの理由から、ショールームのキッチンにも使用しました」と

「コーリアン® は 20 年以上前から採用しています。長年にわたる信頼感と、扱いやすさ、メンテナンスのしやすさなどの理由から、ショールームのキッチンにも使用しました」と

「コーリアン® は 20 年以上前から採用しています。長年にわたる信頼感と、扱いやすさ、メンテナンスのしやすさなどの理由から、ショールームのキッチンにも使用しました」と



株式会社賀川 代表取締役
賀川吉浩氏

話してくださったのは、株式会社賀川の代表取締役賀川吉浩氏。今回は、幅 3300mm というキッチンの大きさにあわせて、カウンタートップにも重厚感を出したいとの意図で、小口部分はデュポン™ コーリアン® を三層に重ねるデザインに。「これまでにも、コーリアン® の加工性を活かして個性的なキッチンを数多く手がけてきました。カウンタートップに象眼を施したものなどもありました。ジョイント部分の仕上がりがいかにできることや、部分的な修復も可能なことなど、コーリアン® は、独創的なデザインの実現に欠かせない特性を備えています」と賀川氏。デュポン™ コーリアン® の加工性と同社の高い技術が出会い、数々の個性的なキッチンが誕生してきた。東京ショールームがオープンし、より多くのユーザーや建築家と会社が会えることで、その表現はこれからもますます広がってゆくのだそう。



▲トップカウンターにデュポン™ コーリアン®3色を採用したサンウエーブの新しいキッチン「サンヴァリエクリシェル」。シンクとカウンタートップがシームレス接着で継ぎ目なくつながり、デザインの美しさとお手入れのしやすさを兼ね備えたキッチンだ。

「サンウエーブ サンヴァリエクリシェル」

参考価格

上写真のキッチン 385万円

右写真のキッチン 350万円

※いずれもコーリアン®トップ採用の場合



▲対面キッチンの開放感そのままに、インテリア性と機能をプラスした「インテリアゲートキッチン」を提案。



▲「サンヴァリエクリシェル」の特長である「キレイシンク」は排水溝を見せないスッキリデザイン。

新次元の使いやすさを備えたシステムキッチンに デュポン™ コーリアン® 3色が採用

「サンウエーブサンヴァリエクリシェル」

サンウエーブ株式会社の新しいシステムキッチン「サンヴァリエクリシェル」が9月1日にデビューした。ブランド名であるヘリシェル

の機能を装備した「インテリアゲートキッチン」など。

「HELSHER」は、フランス語で「豊かな」を意味する「riche」と「彼女」を意味する「elle」を組み合わせた造語。同社の従来ブランドで中級価格帯の「サンヴァリエヘピット」と、高級価格帯「センテナリオ」に代わる商品で、1984年に発売を開始した「サンヴァリエシリーズ」では6代目の商品だ。

この「サンヴァリエヘリシェル」のカウンタートップにデュポン™ コーリアン®「マグナ*アンタークティカ」「マグナ*モンタナペーパーアイボリー」「マグナ*ココアブラウン」の3色が採用された。「キレイシンク」と継ぎ目のないシームレス接着で、お手入れのしやすさもかなえている。

主な特徴は、軽い力で開いて直感的な使いやすさの「らくパツと収納」や、形・色が綺麗で綺麗な状態を保てる「キレイシンク」、スマートなゲートフォルムに「使う」「隠す」

なお、「シンプルパッケージ」「バリューパッケージ」「スタンダードパッケージ」「プレミアムパッケージ」の4つのパッケージプランが用意されているが、「シンプルパッケージ」以外の3つでコーリアン®トップを選択することができる。

使用された デュポン™ コーリアン®



マグナ* アンタークティカ



モンタナペーパーアイボリー



マグナ* ココアブラウン



▲ 広尾駅から徒歩 5 分ほどのビルの 1 階にオープンした「ボーゲンポール キッチンデザインセンター東京」。外苑西通りに面したショーウィンドウに展示されているアイランドキッチン「Polar White (+SEGMENTO)」。カウンタートップと、一体化したサイド部分にグレイシアホワイトが使われている。ホワイト系の木目柄ツールユニットとのコンビネーションで、概算価格は約 870 万円。

「ボーゲンポール キッチンデザインセンター 東京」

所在地

東京都港区南麻布 5-1-11
TEL : 03-5798-7950
<http://www.tokyo.poggenpohl.com>

キッチン名

Polar White(+SEGMENTO)

サイズ

W 4,000 × D 1,100 × H 880 (mm)

主な設備

シンク/キッチンシンク 900J
水栓/ドンブラハ
食洗機/ミーレ
IH クッキングヒーター/ミーレ
オープン/ミーレ
冷凍庫・冷蔵庫/AEG
エスプレッソマシン/ミーレ

今回使用された
デュポン™ コーリアン®



グレイシアホワイト



▲ミニマルなデザインの中に、食洗機や冷蔵・冷凍庫まで備える。機能性と精巧なつくりも魅力



▲シンクも、デュポン™ コーリアン® の「キッチンシンク 900J」でシームレスな仕上がりに

道行く人の足を止める白を極めた 美しきキッチン

「ボーゲンポール キッチンデザインセンター東京」

ドイツキッチンの中でも、安定した信頼感と 118 年の歴史を持ち、トップブランドとしてゆるぎない地位を築いてきた「ボーゲンポール」。同社の世界で 37 番目となる直営店「ボーゲンポール キッチンデザインセンター東京」が東京・広尾に誕生した。デザインセンター内には 5 つのキッチンが展示されている。そのひとつは、ボーゲンポールとボルシェデザインの「コラボレーションキッチン [P7340]」だ。そして外苑西通りに面したショーウィンドウに展示されているのは、デュポン™ コーリアン® グレイシアホワイトを使用した「Polar White(+SEGMENTO)」。「ショールームはエンドユーザーへの情報発信基地でもあるので、ショーウィンドウに展示するキッチンは、お客様の目に止まり、すんなりと受け入れられるものでなければならぬ」と考えました」と話してくださったのは、ボーゲンポール ジャパン株式会社 の塚本 孝一氏。「ビルトイン機器やカウンタートップなどの素材もボーゲンポールのキッチンにふさわしいものでなくてはならないと考えています。ですから、クオリティ、ブランド力、メンテナンス性のすべてがそろったものを選んでいきます。人工大理石では品質が確かであるデュポン™ コーリアン® を採用しました」と同社代表取締役の川島東治氏。「手で触れたときにもクオリティの高さが伝わる素材だと思います」と話してくださった。



▲洗練されたデザインで高級感を追求したヘッカー社「アクティブ システム (activ systemat)」シリーズ。モダンからカントリーまでの豊富な面材が選べることも魅力だ。ガイア大阪スタジオに展示されたアイランドキッチンには、木目を見せたホワイト系の扉とダークグレーの組み合わせに、パールドビーチのカウンタートップを採用している。

[ガイア大阪スタジオ]

所在地
大阪府大阪市西区京町堀 1-4-3
TCF 肥後橋ビル 501
TEL : 06-6225-4571
<http://www.gala-kitchen.com>

キッチン名
ヘッカー社
アクティブ システム シリーズ

サイズ
W 2,740 × D 1,100 (mm)

主な設備
水栓/グローエ
IHヒーター/パナソニック電工

デュポン™ コーリアン® 加工施工会社
株式会社コスモ建材工業

今回使用された
デュポン™ コーリアン®



パールドビーチ



ガイア株式会社
営業 須山浩二氏



▲ナチュラルでありながら華やかさも備えるパールドビーチ。



▲コーナーをオープンラックにするなど、インテリア性の高いデザインも特長。

パールドビーチの煌めきと 上質感をまとったキッチン

「ガイア大阪スタジオ」

ドイツキッチンやオリジナルキッチンを取り扱うガイア株式会社の大阪スタジオに、デュポン™ コーリアン® 2008年度新色のパールドビーチを採用したキッチンが登場した。

キッチンは、シンプルで洗練されたデザインと機能性を備えたヘッカー社のアクティブ システム シリーズ。木目にコーラルレッドの差し色を効かせたコーディネートも新鮮だ。

「ショールームの一番手前に配置するキッチンですので、インパクトのあるものにしたと考えていました」と、ガイア株式会社の須山浩二氏。そこで、カウンタートップも、個性のある素材と、デュポン™ コーリアン® パールドビーチをセレクトしたのだ。2740mm × 1100mmの大きさ

で使われたパールドビーチは、ゴールド系のベースにアンティークの真鍮をイメージした流れ模様が際立ち、存在感も十分だ。「はっきりした柄ですが、実際に見ると、やさしい印象。自然な模様なので、個性も強くなりすぎず、ちょうどよいですね」と須山氏。同社では、7/8割のユーザーがカウンタートップに人工大理石を選ぶという。品質やメンテナンス性でデュポン™ コーリアン® を選ばれる方も多いのですが、色や柄が気に入ったという理由で選ばれる方も多くいらっしゃいます」とのこと。ガイア大阪スタジオの新しい展示キッチンは、シンプルやカタログだけでは伝わりにくいパールドビーチの美しさや存在感、質感も、存分に伝えてくれた。

「巻く」という名前のついた ハイスペックオーダーキッチン

【ルーロ】



[ルーロ]

製造・販売 リブレ株式会社
http://libre-kitchen.com/

サイズ W 2550×D 750

主な設備

シンク／キッチンシンク 900J
フロントパネル／ナラ、サクラ、
ゼブラウッド、サペリの4種類
IH ヒーター／Teka
水栓／GROHE
レンジフード／ARIAFINA
食洗機／Panasonic

お問い合わせ

リブレ福岡ショールーム
福岡県福岡市中央区薬院 1-8-5
TEL:092-713-7765

リブレ宮崎本社ショールーム・工場
宮崎県北諸県郡三股町夢池 3628-3
TEL:0986-52-6850

LIBRE

使用された
デュポン™ コーリアン®



カメオホワイト

《写真右ページ・ルーロ》

上段／リブレ福岡ショールームに展示されている「ルーロ」。ソリッドなデザインが美しい。足元を絞り、蹴込み部分をやや高めにとること、軽さや浮き感を演出したフォルム。サイズや設備を変更してカスタマイズすることも可能だ。

左下段／シンクはデュポン™ コーリアン® 900Jを採用。カウンタートップと一体化した美しい仕上がりに。

右中段／引き出しは奥行きを最大限生かす60cmレールを採用して収納力にも配慮。扉面がステンレスのパンチングメタルになっている部分は、まな板や布巾のための収納スペース。

《写真左ページ・その他の施工例》

右／カウンタートップだけでなく引き出しの底板にもコーリアン®を使用した施工例。引き出すたびに楽しくなるポップな色づかいに遊び心を感じる。

左上段／カウンタートップからバックへ、コーリアン®の板を90°に折り曲げて被せたような珍しいデザイン。

左中段／リブレ福岡ショールームに展示されている民芸調のキッチン。カウンタートップはサクラの無垢材をコーリアン®で挟んでいる。

左下段／黒いフレームの中にキャビネットを収めたようなデザインがユニークなキッチン。カウンタートップに石目調のコーリアン®を使用。

「思い通りのデザイン、機能を実現できるのがオーダーキッチンの最大の魅力です。でも、水栓ひとつでも種類が豊富で、一から全てを決めるのは大変、とおっしゃる方もいます」と話してくださいましたのは、リブレ福岡ショールーム所長の内田智之氏。そこで、これまで多彩なオーダーキッチンを製作してきた同社が、その実績を活かし、

同社のキッチンは、天然木を用いたインテリア性の高いデザインが特徴。扉材などに使われる木材は約30種類を扱っている。それらの天然木と組み合わせるカウンタートップには、デュポン™

「思い通りのデザイン、機能を実現できるのがオーダーキッチンの最大の魅力です。でも、水栓ひとつでも種類が豊富で、一から全てを決めるのは大変、とおっしゃる方もいます」と話してくださいましたのは、リブレ福岡ショールーム所長の内田智之氏。そこで、これまで多彩なオーダーキッチンを製作してきた同社が、その実績を活かし、

同社のキッチンは、天然木を用いたインテリア性の高いデザインが特徴。扉材などに使われる木材は約30種類を扱っている。それらの天然木と組み合わせるカウンタートップには、デュポン™

また、さまざまな空間にサイズや形を合わせて設計されるオーダーキッチンだからこそ、加工しやすい素材であることも重要だ。「大きな部材が搬入しにくい場合でも、コーリアン®なら現場施工が容易にできるので助かっています」。



コーリアン®の加工性と職人技が創り出す個性

ベストセレーションとして誕生させたのが「ルーロ」だ。

コーリアン®が選ばれることが多いという。「デザインだけでなく使いやすい、やさしさに大切にしています。その点でも、メンテナンスのしやすいデュポン™ コーリアン®をお勧めしています。触ったときに温かみのある質感も、木材と相性がよいと思います」と内田氏。

暮らしに合わせて変化する、動く収納 素材には長く使っても変わらないものを

「ce-fit 可動間仕切収納 LDKタイプ」

「ce-fit 可動間仕切収納 LDKタイプ」

ショールーム
大阪市西区南堀江 2-13-26
アクシスビル 2F

お問い合わせ
アクシス株式会社
フリーダイヤル:0120-348-225
(受付時間 平日 9:00~17:00)
<http://www.ce-fit.com>

使用された
デュポン™ コーリアン®



カメオホワイト



▲「ce-fit 可動間仕切収納」は、本体底部のハンドルを回すと、キャスターがでて、手軽に移動ができる。また、ハンドルを逆に回すと、天井に突っ張って耐震転倒防止状態になり、ハンドル操作だけで可動と固定を切り替えることができる。間仕切りとして使用する際には両側から収納が使えるように設計されている。



◀キッチン、ダイニング、リビングをそれぞれのゾーンに仕切って、落ち着いた雰囲気を作った配置や、急な来客で、キッチン周りを目隠ししたいときなど、生活シーンに合わせた空間を、手軽に作ることができる。



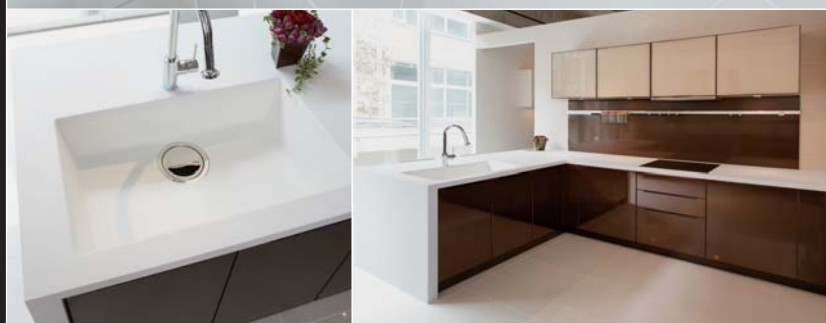
▶ホームパーティーやお子さんの誕生会など、大人数でテーブルを囲んで、ワイワイ楽しみたいときは、オープンスペースに。部屋の模様替えも簡単にできるのがうれしい。

家族が増えたり、ライフステージが変化すれば、暮らしに必要な「空間」や「収納」も変わる。そんなとき、可動式の収納を空間の間仕切りとして使うことで、その時々に必要な「空間」と「収納」をフレキシブルに創り出してしまおうという発想で開発されたのがアクシス株式会社の『ce-fit(セフィット) 可動間仕切収納』だ。今回、より多彩な暮らしのカタチに対応できる新たな提案として、AVボードやカップボードなども組み込んだ『ce-fit 可動間仕切収納 LDKタイプ』が発売された。

このLDKタイプの棚板やカウンタートップにデュポン™ コーリアン® が採用された。コーリアン® を選んだ理由について、同社の彦坂専務にお聞きした。「セフィットのメインコンセプトは『ずっとおつきあい』です。ライフステージや日々の暮らしのあらゆるシーンの変化に対して、使い捨てて対応するのではなく、位置や使い方を「変える」ことで、ずっと長く使える収納なのです。それだけに、素材はコーリアン® のように、大切にメンテナンスをすることでいつまでもキレイに保てるもの、つまり逆に「変わらない」ことも、重要な要素なのです」とのことだ。

エレガントなモダンキッチンを縁取る 垂直・水平な真白のライン

「ユーロモビル東京 代官山ショールーム」



「ユーロモビル東京
代官山ショールーム」

所在地
東京都渋谷区代官山町2-3
ザ・ロウズ代官山2F

www.euromobil-tokyo.com

主な設備
水栓／ハンスグローエ
コンロ／アーエーゲー
レンジフード／ガゲナウ
シンク／デュポン™コーリアン®
キッチンシンク900J

デュポン™コーリアン®加工施工協力
中外交渉株式会社

今回使用された
デュポン™コーリアン®



グレイシアホワイト

イタリアのシステムキッチンメーカー、ユーロモビル(Euromobil)社のショールームが、去る6月1日に東京・代官山にオープンした。

「関東初となるショールームとして、また、首都圏における情報発信基地としてもふさわしく、ユーロモビルの代表的なセットを展示しています」と説明してくださったのは、関東地区の代理店であるユーロモビル東京の海野高久氏。

ユーロモビル社のキッチンの特徴は、「546種類の扉面材」×「98種類のキャビネットカラー」+「21種類のハンドル」×「5種類のサイズ」×「25種類の仕上げ」を自由に組み合わせることが出来る「マルチシステム設計」にある。代官山ショールームには3台のキッチンがレイアウトされているが、いずれもシンフルでエレガントな佇まいで、インテリア性の高いデザインが秀逸だ。そのうちの1台にデュポン™コーリアン®グレイシアホワイトのカウンタートップが採用されている。

ユーロモビルのキッチンで採用されているモジュールは、厚みが20mm、4mm、75mm。面材は600mm角がベールになっている。そのモジュールバランスで、「平行・垂直・水平なライン」

を強調したシンメトリックな置き合わせにすることで、調和や安らぎを感じ、洗練された印象を創りだしているのだという。

「今回、グレイシアホワイトをカウンタートップに採用した理由は、上部キャビネットとキッチンキャビネットの間に、はっきりとしたラインを引いて、印象を切り替えたいと考えたからです」と海野氏。キッチンを側面から眺めると、カウンターの小口4mmとサイドパネルの小口75mmの厚さで、真っ白な水平・垂直ラインが描き出されている。「ユーロモビルのキッチンはシンフルなデザインのもので多く、ちょうど、模様のない単色系で、ケミカルな素材にも見えるグレイシアホワイトの世界観がよく合っていると思います」。

シンクにはデュポン™コーリアン®900Jを採用。「ヨーロッパでもシンクは一体成形がトレンドです。ただし、Wシンクなのでそのまま日本にもってくることが難しいので、日本ではこのタイプを採用しています」と海野氏。カウンターとシームレスにつながるシンクも、ユーロモビルが追求するミマルデザインの美しさを、より引き立てているのではないだろうか。

ゆったりとした流れ模様が、 日常にやすらぎの瞬間をつくる

【Q氏邸】



キッチンに立つ時間が多い奥様も眺めを愉しめるようにと、庭に面した大きな窓の正面にアイランド型のキッチンを配置。

Q氏邸
[東京都世田谷区]

延床面積
173.51㎡

竣工年月
2009年1月

設計
センチュリーデザインオフィス
www.cdo-net.jp

施工
ミサワホーム東京株式会社

キッチン製作
ミサワホーム株式会社

デュポン™コーリアン®加工施工会社
株式会社矢板加工産業



▲トップと側面まで一体化されたコの字型のデザイン。



▲収納扉のオレンジとの対比も美しい。

「Q氏邸は庭ありきの家なのです」と話してくださったのは、センチュリーデザインオフィスの建築家、前田康憲氏だ。「庭をできるだけ広くとり、眺めを愉しめる家にと」いうのがオーナーご夫妻の要望だった。高台に位置し、富士山を遠望することができるという恵まれたロケーションを活かすため、最初に庭の位置を決め、それから建物を配置したそうだ。5m×3mの1枚ガラスの大きな窓を設けたリビングは庭と一体化し、家の中にいながらにして、外の眺めを堪能できる空間になった。

内装は落ち着いた配色の中にもポップな感覚を採り入れたコーディネート。キッチンカウンターにはデュポン™コーリアン®エクリュを使用している。

「個性的だけど、温かな風合いを持つエクリュは、素材感を大切にされたQ氏邸のインテリアによく馴染んでいると思います」と話してくださったのは、ミサワホーム株式会社商品開発本部の花田貴子氏。

「柄の流れ模様に美しく見せるためにはどのように処理するのがよいか、かなり気を配りました。実際にショールームで確認したうえで、加工をお願いした矢板加工さんには、小口部分の流れ方向、材のとり寸、とり直しなどを細かく相談しておりました」。また、現場でシーム接着し、磨きをかけて滑らかな手触りにするなど、最後までこだわって仕上げたそうだ。

「ふと目に入る、庭の緑や暖炉の火と同じように、エクリュの流れの模様のゆらぎ感は、ゆったりとした気分にくれます。あわただしく調理している間にも、そんな瞬間を愉しんでいただきたいですね」と花田氏。

今回使用された
デュポン™コーリアン®



エクリュ

もてなしの場としてのキッチンで料理を引き立てるカウンタートップ

「T氏邸」



テーブルとしても使用できるアイランドカウンター。



▲洗面台はカメオホワイト。ボウルも一体化されている。



▲ダイニングカウンターに造り付けられたカウンターとダイニングテーブルの天板はグレイシアホワイトで統一。

T氏邸

今回使用された
デュポン™ コーリアン®



シエラ スノーフレイク



グレイシアホワイト



カメオホワイト



▲中庭に設けた手洗にもデュポン™ コーリアン®を使用。 ▲3680mmの長さがあるテレビ台のトップもグレイシアホワイトに。



T氏邸は、「大勢のゲストを招くことができる家」というオーナーの意向を受けて設計された住まいだ。応接間をつくらず、中庭を囲むように配置されたリビングからダイニング、キッチンへと続くオープンな空間が、ゲストをもてなすパブリックな場所として位置づけられている。そこでキッチンも、ゲストのための料理を用意する厨房としての機能、そして、もてなしの場としての美しさを求められた。

機能性と美しさを併せ持つ素材として、T氏邸のキッチンカウンタートップほかに採用されたのが、デュポン™ コーリアン® グレイシアホワイトだ。鏡のように磨き上げられたその輝きは、並べられた料理を鮮やかにひきたてる。「パブリックな場にふさわしい素材という点も、デュポン™ コーリアン®を選んだ理由です」とT氏は語ってくれた。

いつもいまが快適な住まいに ふさわしい素材

【H氏邸（兵庫県）】

1 ドレスカウンター

積水ハウスオリジナル洗面カウンターをカスタマイズ。天板と一体化したシンクや、扉・前口、棚板までをカメオホワイトで製作。いつまでもきれいに使いたいというオーナーの要望に、化粧品などがついてもしみになりにくいデュポン™コーリアン®はぴったりだった。

2 ゲスト用ドレスカウンター

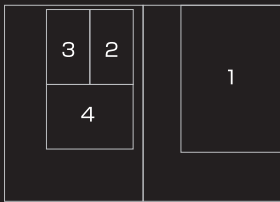
お客様に寛いで使って欲しいという、もてなしの心を込め、日本的な和みの空間を演出。マグナ*ココアブラウンの洗面台の足元にはグラーサ*ホワイトの透光性を活かした柔らかな光の照明を配置。腰壁や見切枠の部分にコーリアン®を採用し、水跳ねも気にせず使えるように配慮している。

3 チェア

中庭を臨む2階ホールは絶景ポイント。ちょっとしたスペースを設けて憩いの場所にしている。施工に来たテクマの技術者が、この場所を見てインスパイアされ、デュポン™コーリアン®の一枚板を曲げて創作したチェアをプレゼントしてくれたそうだ。

4 キッチン バックカウンター

オープンキッチンでモダンな空間のH氏邸のLDKでは、収納が重要ポイントとなった。増えていくモノや家事動線まで考え、機能とデザインを両立するバックカウンターを製作。4mのカウンタートップは搬入も一苦労だったとか。引出し前板までデュポン™コーリアン®にし、プッシュオープンすることで、手が汚れていても、ふさがっていても使いやすい。



表紙 エントランス

宙に浮いた黒いベンチはシエラ*ブラッククォーツ。玄関から直接入ることができる和室へのアプローチは、茶室の前の路地をイメージし、ベンチは待合の腰掛けともいえる存在。脚をつけたくないというオーナーのこだわりを、積水ハウスの川嶋氏が生産部門や、鉄鋼系の協力メーカーにまでかけ合って実現した。

使い捨てではなく
よいモノを大切に作る

「永く住まう家だからこそ、いつまでも大切に、そして綺麗にしておきたい」というオーナーの願いをかなえ、住まいのすみずみまでに実現したのが、兵庫県のH氏邸だ。

「私たちは、生涯住宅思想に基づき、『いつもいまが快適』な住まいを提供するため、住まい方の研究やサステナブル社会に向けた技術開発など、様々な取り組みを行っています。が、素材選びもそのひとつ。毎日使いながら、美しく保つことができるものでなければなりません」と話してくださったのはH氏邸の設計を担当した、積水ハウス株式会社の川嶋将嗣氏。そういつた観点から、これまでも洗面カウンターなどでデュポン™コーリアン®を使うことは多かったそうだが、H氏邸では打合せを重ね、オーナーの理想をひとつひとつ形にしていた結果、あらゆるシーンで、デュポン™コーリアン®を提案し、採用することになったという。

「たとえば、10年前に買った靴は、今もなお私のお気に入りです。当時とても高くて、色々悩んだのを覚えていますが、それが故に、大切にメンテを繰り返して愛着のあるモノとなったのです。そんな拘り抜いたモノたち

H氏邸（兵庫県）

敷地面積
258.53m²

延床面積
147.18m²

工法
軽量鉄骨造

竣工
2008年3月

設計・施工
積水ハウス株式会社 阪神支店

設備機器
セフィット
／アクシス株式会社（オーリスグループ）

デュポン™ コーリアン®
加工施工協力会社
株式会社テクマ（オーリスグループ）



使用された デュポン™ コーリアン®



シエラ*ブラッククォーツ



カメオホワイト



マグナ*ココアブラウン



グラース*ホワイト



が居る場所だから、収納も「過性」ではなく、これからの変化の中でもずっと使い続けられることを重視しました。そして、この家で過ごす日々の暮らしも、大切にしていきたいですね」と語るH氏。

「今回、収納の提案からコーリアン®加工までをお願いしたオーリスグループさんには、収納の使い方だけでなく、将来への変化やメンテナンス収納を中心とした暮らし方まで考え、今回、プッシュオープン®のレールとデュポン™コーリアン®の前口を組合せた引出や、化粧品を置く棚板、見切り枠や腰壁など、新しい用途のご提案もいただき、コーリアン®の加工性の高さや、活用シーンの広さを実感いたしました」と川嶋氏。

暮らしに対する拘りを持つオーナーと、家づくりに妥協しないプロが出会い、力を集結して作り上げた住まいだからこそ、デュポン™コーリアン®の特性もこれまで活かされたに違いない。

天然石の趣をもつ新色が キッチンの高級感を引き立てる

「ガイア東京スタジオ」



職人気質でつくられる ドイツ製キッチン

ドイツ製システムキッチン、洗面化粧台の輸入販売、オリジナルキッチンの販売施工などを手がけるガイア株式会社。同社の東京スタジオ（東京シヨールーム）で、2008年5月から新しく展示されているキッチンのカウンタートップに、デュポン™コーリアン®の新色、レインクラウドが採用された。

キッチンは、精密な造りで美しさと機能、高い耐久性を兼ね備えるヘッカー社の「クラシックシリーズ ブリストル」。採用されたカラーは、オフホワイトに淡いグレーが混じり、天然石のような自然な模様を生み出している「レインクラウド」だ。

「ヘッカー社は1938年創業の元家具、ショップです。キッチン製造でも約40年の歴史があります。本国ドイツでは売上高2位のメーカーですが、アジアや中東、中国、マレーシア、シンガポールなどに進出する世界戦略でも成功しています」と説明してください。したのは、株式会社ガイアのキッチンスペシャリストである武藤真紀子氏。ヘッカー社は2008年のミラノサローネでも、カウンターをスライドさ

せてキッチンをすっぽり隠してしまえる斬新な新商品を発表し、注目を集めた。アイデアもさることながら、カウンターとキッチンの隙間を1センチ以内に収めるという高い技術こそが同社の強み。精密な収まりや美しい面材の仕上げは、日本でも人気の理由だ。また、モダンからカントリーまで、幅広い面材のラインナップもヘッカー社ならではの特徴。今回、ガイア東京スタジオに展示されたキッチンには、クラシカルな塗りの面材が採用されている。

「どのキッチンもカウンタートップは日本で調達しています。というのも、食文化の違いから日本と欧米では天板として好んで採用される素材に違いがあるからです。生の魚を扱うたり、調理に水を多く使う日本と違い、欧米ではカウンタートップにメラミン樹脂や木、天然石が用いられることが多いですね。バックガードもつけないことがほとんどなんです。一方、日本で、私どもの扱うキッチンを購入される方はメンテナンス性のよさなどから、人工大理石を希望する方が増えています」と武藤氏。中でも、天然大理石に近い柄や風合いのある人工大理石が人気を集めているという。

ガイア 東京スタジオ

所在地

東京都世田谷区用賀2-12-22
Tel:03-5717-3572
<http://www.gaia-kitchen.com/>

キッチンメーカー

ヘッカー (ドイツ)

シリーズ名

クラシックシリーズ プリストル

主な設備機器

洗濯乾燥機／ミーレ
コンロ・オープン／リンナイ
換気扇／グリーンハイキ (株式会社THA)

デュポン™コーリアン®

加工施工協力会社
大日化成工業株式会社

使用された
デュポン™コーリアン®



レインクラウド



- ▲ (上) バックカウンターのトップは、鏡面仕上げ。オフホワイトに淡いグレーの流れ模様、大粒の透明クラッチと小さな黒粒が、美しい光沢の中に浮かび上がっている。
- ▶ (右) レインクラウドをカウンタートップに採用したヘッカー社のキッチン。ガイア 東京スタジオでは、このほかにアルミルモ、パウフォーマットのキッチンも展示している。



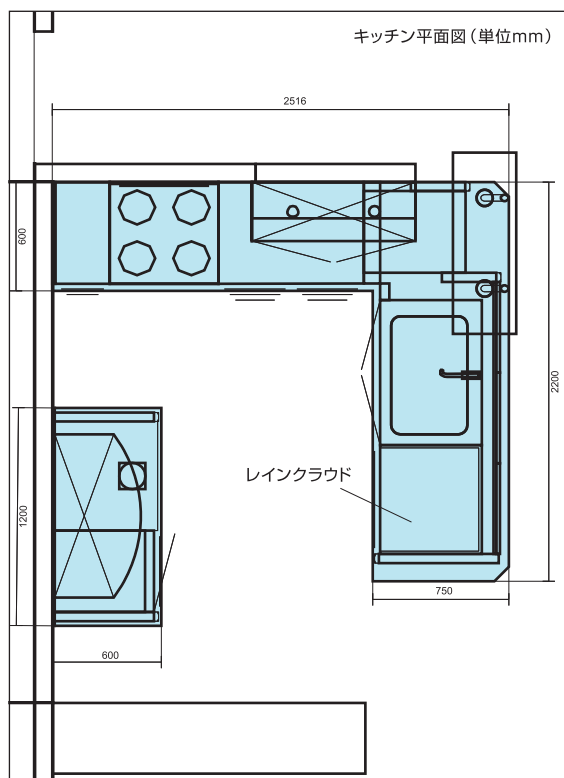
天然大理石に 匹敵する素材

「今回は、古くて新しい、どこか安心感のあるデザインにしたいと思いました。面材の黒に対して、モダンテイストに仕上げるなら、カウンタートップに真っ白を持てがちなのですが、それではコントラストが強すぎるので何かほかにないかと考えていました。ちょうどデュポン™コーリアン®に新色がでたと知り、サンプルを取り寄せたところ、レインクラウドの自然な模様の入り方、高級感や艶など、すべてイメージどおりでした。」

継ぎ目のほとんど見えないシーム接着がデュポン™コーリアン®の大きな

特徴だが、模様の入ったタイプは、柄を合わせることに難しく、継ぎ目が目立ってしまうことも多い。ところが、レインクラウドは模様の入り方が自然なため、特に柄を合わせることをしなくても、継ぎ目がさほど気にならないという。

「規則的な模様はどうしても継ぎ目が気になりますが、完全にランダムなので、かえって目立たないようですね。これまで天然の模様に近い印象の人工大理石はいままでなかったのではないでしうか」と武藤氏。天然大理石に替わる素材として、また一歩、デュポン™コーリアン®が進化したことを教えてくれた。



見せるだけでなく、使える施工展示。 体験型ショールームとしての社屋

【株式会社ライト】



▲ グラス*ソリッドホワイトの透光性を活かした2階トイレの洗面。壁面とカウンタートップはシームレス接合で大きな一枚板に仕上げ、曲げ加工を施している。丸い鏡が、夜空にぼっかりと浮かんだ月に、ボウルは水面を漂う小船のようにも見える

企業を表す看板 としての建物

デュポン™コーリアン®の販売加工など、さまざまな内外装建材を扱う株式会社ライトは、2007年12月に本社を新築した。新社屋は同社で扱う建材を実際に、あらゆる場所に使った「見て、触って、使えるショールーム」として計画されている。「旧社屋はかなり古い建物でしたから、耐震性が問題になっていました。たまたま、旧社屋の隣の土地を購入することになり、社屋の移転・新築の計画が持ち上がりました」と同社の田崎浩一氏。

「新しい土地は三角形だったため、当初は、旧社屋の土地に四角い建物を建てるプランと、新しい土地に三角の建物を建てるプランの両方をご提案しました」とおっしゃるのは、新社屋の設計を手がけた中電不動産一級建築士事務所の長谷川忠生氏。「使いやすいことやコスト面では、四角い建物のほうが優れていますが、社屋は企業を表す看板にもなります。夢のある材料を扱う会社ですから、無難な四角ではなく、三角のプランをお勧めしました。そして誕生したのが、セメント成形板の素地とガルバリウム鋼板を外壁に用いた、三角形のモダンな建物。」

「企業を表すという意味で、“素材感”を強調したデザインにしたいと考え、外壁のガルバリウム鋼板や、アルミサッシなど、すべて無着色のものを採用しています」と長谷川氏。内装材には、同社が扱う多様な素材が、適材適所に用いられた。デュポン™コーリアン®は各階のトイレ、キッチン、そして玄関ホールの壁面などにも採用されている。

素材だけでなく 技術力も展示

3か所にあるトイレは、いずれも個性的な空間になっている。1階の女性用トイレの洗面はまるで板チョコレートそのもの。いまにも甘い香りが漂ってきてそうだ。「仕事の合間にふっと息の抜ける場所になればと思いました」と長谷川氏。一方、男性トイレには「伊達シャツ」と名付けられたさわやかなストライプ模様の洗面が設けられた。こちらは、身だしなみを整えることで気分を変えてほしいという思いが込められている。

来客も使用する2階トイレの洗面台は、一段と新鮮だ。シームレス接合で大きな一枚板に仕上げられたデュポン™コーリアン®が、壁面から、滑らかな曲線を描いてカウンタートップへつ

株式会社ライト 本社屋

所在地

愛知県一宮市せいの4-1-11

建築面積

393.77m²

床面積

770.75m²

竣工

2007年12月

設計

中電不動産一級建築士事務所

施工

中電不動産株式会社

デュポン™コーリアン®加工施工会社
株式会社ライト

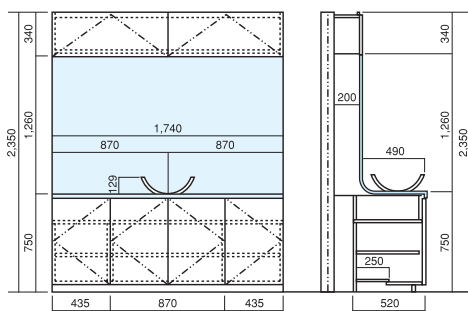


上段／1階の女性用トイレ。厚さ12.3mmのデュポン™コーリアン®コーヒーを積層し、凹凸を際立たせている。

下段／カウンタートップ、扉材、シンクまですべてデュポン™コーリアン®で作られたキッチン。シンクは900J、他はグレイシアホワイトを使用。



〈2階トイレ・洗面〉



使用された デュポン™コーリアン®



グラサソリッドホワイト



コーヒー



グレイシアホワイト
ほか



左から、中電不動産株式会社・山田弘治氏、
中電不動産一級建築士事務所・長谷川忠生氏、
株式会社ライト・八木智子氏

ながっている。使用色は、透光性に優れたデュポン™コーリアン®グラサソリッドホワイト。背面に仕込まれたライトを点けると、壁全体が光り、鏡と洗面台の浮遊感を強調する。さらに、そのやわらかな光は、洗面の前に立つ人の肌を美しく照らす。

実は、長谷川氏はデュポン™コーリアン®を扱うのは今回が初めてとのこと。「何ができるのか、というところから始まって、私のデザイン提案をもとに、ライトさんに素材の使い方や加工方法などを検討していただき、最終的に、積層や切削など、コーリアン®の特

長をより強調するデザインにできたと思います」と長谷川氏。

今回、長谷川氏と二人三脚で内装のデザインを仕上げていったのは、株式会社ライトの建材部・インテリアコーディネーターの八木智子氏。デザイン図をお預かりしてから、どのようにするかとしばらく考えたものもありました。でもどれも素敵なデザインで、私たちにとても新しい挑戦になりました。

なかでも、初めて扱うグラサソリッドホワイトは、透光性の予測が難しかったという。「実際に取り付けてみると、バックライトの蛍光灯の影が見えてしまったため、現場で蛍光灯の配置や距離を調整しながら、完成させました」と話してくださったのは、施工の指揮をとった中電不動産株式会社の山田弘治さん。

このように、デザイナーと施主と施工担当が力を合わせて取り組むことができたのは、デュポン™コーリアン®の加工販売を行う同社だからこそ。「いま私たちにできることや提案のすべてをつぎ込んだ、ショールームになったと思います」と前述の田崎氏。素材を見せるという目的だけでなく、同社の技術力も同時に証明している新社は、まさに「企業を表す看板」としての機能を果たした建物となった。

料理や食をもっと楽しく。 心躍るキッチン空間の提案

【インテリアフェスティバル2007・三井ホーム オリジナルキッチン】



▲キッチンの手前に置かれているのは、脚部分に新色のグラサ*ソリッドホワイトを使用したダイニングテーブル。
天板はバナナの形になっている。空間全体がマカロンカラーに彩られ、ファンタジー溢れる雰囲気仕上になっている。

自然に人が集う 円形キッチンを提案

インテリアコーディネーター、キッチンスペシャリストに向けてインテリアの最新情報、新製品を発表する「インテリアフェスティバル2007」が、2007年11月2日から24日まで東京ビッグサイトで開催された。キッチンメーカー、家具メーカーによるスタイリッシュな展示が並び、企画型の展示として注目を集めていたのは、住宅メーカー3社による新しいキッチン空間の提案。各社を代表するインテリアコーディネーターがキッチンを中心にトータルコーディネートした空間が展示された。

この企画展示で三井ホーム株式会社がキッチンハウスの「コソボレーション」で企画したオリジナルキッチンにデュポン™コーリアン®が使われた。

展示ブースの中央には白いキッチン、その手前にはバナナをかたどったダイニングテーブルが置かれている。全体のカラーコーディネートはピンクを基本色に、お菓子の「マカロン」をイメージしたパステルカラーの円形モチーフをちりばめ、見ているだけで元気になるような空間だ。

「楽しく料理をして、おいしく食と

向き合つことをテーマに、キッチンは円形スタイルにしました。サークルというのは人を集めやすい形だと思っていますので、キッチンに人が集うイメージと、展示としても来場者の方が入りやすい空間になることの両方を実現できると考えました。キッチンの動線としても、アールというのは動きやすく機能的だと思います」とおっしゃるのは、今回のコーディネートを担当された三井ホーム株式会社のインテリアコーディネーターである清水慶子氏。

「インテリアは、パリエンスに憧れるマカロンの大好きな女の子をイメージしています。キッチンに立つことがもつと楽しくなるような、オープンでカラフルな空間ですが、フアブリックパーティションでタイミングと仕切ることでもできるよつに計画し、キッチンを隠したときにも楽しめるよつになっています」。

デュポン™コーリアン®の 特性をフルに活用

デュポン™コーリアン®が採用されたのは、キッチンのカウンタートップのほか、アールの壁面に取り付けられた吊り棚とダイニングテーブル。

「円形のキッチンを製作するにあつて、収納部分の箱の収まりが一番難し

インテリアフェスティバル2007 三井ホーム オリジナルキッチン

開催期間
2007年11月21日(水)～24日(土)

会場
東京ビックサイト西館・西4ホール

主催
社団法人インテリア産業協会

出展者
三井ホーム株式会社

キッチン製作
キッチンハウス

デュポン™ コーリアン®
加工施工協力会社
株式会社エイベクス

使用された デュポン™ コーリアン®



グラサソリッドホワイト



グレイシアホワイト



ティーローズ



上段右／シンクもコーリアン®製 上段左／影になりがちなテーブルの脚部分に光を入れている
下段／円形のレンジフードもキッチンハウスのオリジナル



株式会社TJMデザイン
宮口末乃里氏

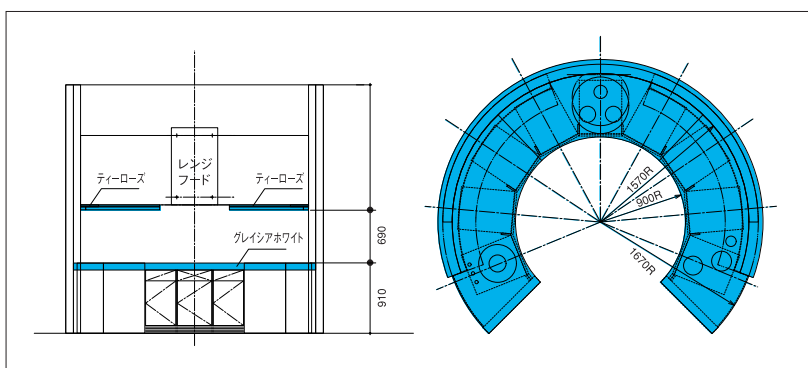


三井ホーム株式会社
清水慶子氏

「今回の展示で、アールを多用した形状や、色の使い分け、透光性など、コーリアン®の特長をフルに活かしてみ

いのですが、天板を寸法精度が高いデュポン™コーリアン®で製作することで、スムーズに収めることができました」と話してくださいしたのは、キッチンとダイニングテーブルの設計・製作を担当されたキッチンハウスの宮口末乃里氏。

「色を使い分けができてきれいなところもいいですね」と、女性ならではの視点からも、その魅力を評価してくだ



ミニマルな空間に溶け込む 真っ白なキッチン

[香川県・M氏邸]



M 氏邸[香川県]

敷地面積
144.4坪

延床面積
285.89㎡

竣工
2007年4月

設計
小川晋一都市建築設計事務所

施工
富士造形・大企建設

キッチン製作
藤岡家具店

主なキッチン設備機器
・ガス調理器／ガゲナウ
・オープン／ガゲナウ
・食洗機／ミーレ

デュポン™コーリアン®
加工施工協力会社
藤岡家具店



ミルクで作った プリンのような質感

窓のないグレーの箱のような建物。表通りに面したMさん宅の外観は、一見すると住宅であることがわからない佇まいだった。ところが、玄関から一歩足を踏み入れると、その印象は一変する。最初に目に飛び込んでくるのは、玄関ホールから直線に伸びる長い廊下。その突き当たりは、遠くに見えるトンネルの出口のように、明るい光にあふれている。LDKへと進むとさらに驚きが待っていた。壁面、天井は白で統一され、部屋の中には、余分なものが一切なく、ドア枠や窓枠、収納、コンセント、そして暖炉までが巧みに消し去られたミミマルな大空間が広がっている。壁の2面は天井までのガラス窓。その向こうにはリビングを挟むように中庭が配置されていた。

一方の中庭を背景に、床から生えてきたような真っ白な大きなボックスがひとつ。デュポン™コーリアン®で作られたカウンターキッチンだった。

「自宅を新築することになり、自分たちと感性の合う建築家に設計をお願いしようと考えました。小川さんの作品は以前から雑誌などで見てよく知っていましたから、依頼をした時点でどのようなデザインになるかは十分理解していました。キッチンについても、小川さんがデュポン™コーリアン®のグレイシアホワイトをよく使っていることを承知していました」とMさん。

もともと、建築デザインに造詣の深いMさんは、建材についての知識も豊富で、デュポン™コーリアン®についてもご存じだったそうです。

「小川さんが『ミルクで作ったプリンのような質感がいい』とグレイシアホワイトのことを表現していたので

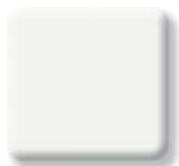
ですが、私も以前から同じように感じていました。硬いのにやわらかいところや、光りすぎないところもいいですね」。

Mさん邸のキッチンは、幅約5メートルのビッグサイズ。腰板、天板、扉材まですべてデュポン™コーリアン®で製作されている。カウンタートップと、内側の壁面には直線的な照明が埋め込まれている。

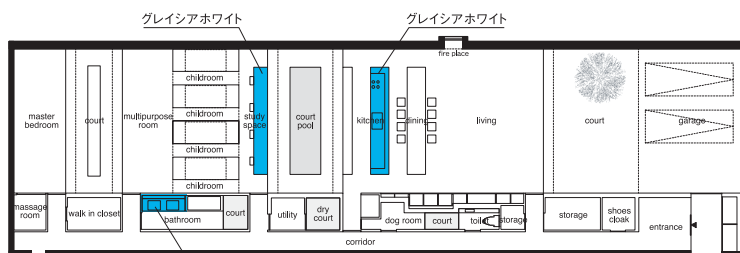
「メンテナンスが楽なので、家中に使用してもいいぐらいです」とおっしゃるMさん。キッチンのほかに洗面と、子供部屋に造りつけた勉強機の長いカウンターにも、グレイシアホワイトを採用している。

「汚れがつきにくく、お掃除も簡単なので助かっています」と奥様。デザインのある美しい暮らしを心から楽しまれているご様子のお二人だった。

使用された
デュポン™コーリアン®



グレイシアホワイト





空間の印象に変化をもたらす
ミニマルデザインのプランター

Rigna (リグナ)

「デザイン家具の販売から空間デザインまで手がけるインテリアリーディングカンパニーである『リグナ』が、デュポン™コーリアン®でつくるミニマルなプランターを開発。2017年6月に行われた『住スタイルTOKYO2017』で、オリジナル家具ブランド『REMBASSY/レンバシー』の新作とともに展示された。さまざまな大きさのプランターにはデュポン™プライベートコレクションの個性ある5色が採用された。

「デュポン™コーリアン®を使って何か新しい提案をしようということになり、弊社のコーディネート提案には欠かせないグリーンと組み合わせるプランターを企画しました」と話してくださいしたのは、リグナの仲野俊生氏。

「デュポン™コーリアン®の特性や加工性については、以前からよく知っていましたが、どちらかというと店舗などで大きな什器に使う素材という印象でした。では、インテリアとして用いるには、どんな形がいいのかな、と考えました」。

そこで、仲野氏が提案したのが、「点在するコーリアン®」だった。「いろいろなところに、いろいろな表情の、かたまり感のあるコーリアン®が存在するという空間をつくってみたいと考えました。表情の強いカラーを選んだことで、これに負けないグリーンが必要だ、とさらにイメージも広がり、コーディネート提案の新たな切り口になるのでは、という期待もありました」。

デュポン™プライベートコレクションの使用時に、デザイナーの方が気にされるのは、施工した際や製品化した際の柄の見え方や印象について。仲野氏は、小さく使うことで、どの程度、新鮮な印象を保てるかが心配だったそう。「完成してみると、期待以上の存在感でした。表と裏の柄の出かたが違ったりも、面白いと思います。プランターの内側に、計算されていない



使用色（左から）
ソレル、サンドストーム、タンブルウィード
レインクラウド、ヘーゼルナッツ



●展示 『住スタイルTOKYO2017』
●開催期間 2017年6月8日(木)～11日(日)
●デザイン・開発 リグナ株式会社
<http://www.rigna.com/>
●デュポン™コーリアン®加工協力 株式会社エイベクス
※プランターについてのお問い合わせ
TEL: 03-6222-0761 (リグナ株式会社)

「ワイルドな柄がちょっと見えている、というのも、遊び心と考えてデザインしました」。

自然界からインスピレーションを得て、その世界観を独特な色柄で表現しているデュポン™プライベートコレクションについてうかがうと、「たとえるなら、麒麟や龍といった空想上の生き物。溶け込んでるように見えて、どこか違和感がある存在。自然の中に見え隠れする、強さや良いところをぎゅっと凝縮して製品化しているから、小さくしてもパワーがあるのだと思います。いい意味で空間をかき混ぜる存在になる素材ですね」とのこと。展示されたプランターは商品化の検討段階だが、ポイントを絞った使用でも思った効果が得られることを実感し、活用のアイデアも広がったそう。「サイドテーブルや小物など、手の触れるところにも使いたい素材です。これをデュポン™コーリアン®でつくるのか、といった、意外な使い方にも挑戦してみたいです」と、次の展開も楽しみなお話を聞かせてくださった。



インテリアに溶け込む システムキッチンへ

タカラスタANDARD
ホーローシステムキッチン「レミュー」

ホーローシステムキッチンで圧倒的なシェアを誇るタカラスタンダードがフラッグシップモデル「レミュー」を10年ぶりにフルモデルチェンジ。ホーローならではの光沢のある美しい扉と組み合わせるワークトップには、新たにコーリアン®2色も選べるようになった。そこで、新しい「レミュー」の特長と、コーリアン®の採用について、タカラスタンダードの重原政子氏にお話をうかがった。

「ライフスタイルの変化などから、システムキッチンも使いやすさだけでなく、素材やデザイン性、さらにインテリアとのコーディネートしやすさなどが求められるようになっていきます。今回のフルモデルチェンジでは、扉のデザインをスタイリッシュに刷新し、柄の上にもう一度グロスをかけることで深みのある扉カラーを実現するなど、最上位モデルにふさわしい「本質的な美しさ」を追求しました。ワークトップの素材については、レミューのデザイン性、グレード感に合うものを検討しました」。

採用されたのは、プライベートコレクションのレインクラウドとクラムシェル。これまでにはない大胆な流れ模様でありながら、レミューの扉カラーと合わせやすく、また、幅広いテイストのインテリアとコーディネートしやすいことも選定のポイントとなった。

また、人気のアクリル人造大理石製の「家事らくシンク」と、シームレス加工が可能な点も、コーリアン®がワークトップのラインナップに加わった理由のひとつ。女性目線で開発された「家事らくシンク」は、作業のしやすさ、お手入れのしやすさを追求した三層構造で、排水溝まですき間がなく、ごみや汚れもたまりにくい設計。コーリアン®のワーク



「洗う・切る・捨てる」の一連の作業が、シンク内でスムーズに完結する「家事らくシンク」。コーリアン®のワークトップともシーム接着が可能のため、すき間がでず、掃除の手間もかからない。写真はプライベートコレクション レインクラウド。

トップともすき間なくつなげることができ、ため、掃除がしやすく衛生的だ。

「家事らくシンクは、調理スペースとしても使えるよう、さまざまな工夫を盛り込みました。これまでワークトップで行っていた食材を切る、下処理するといった作業はすべてシンク内で行えるため、ワークトップは散らからず、盛り付けなどの仕上げの作業に広々と使うことができます。ワークトップの上が片づくことで、自然ときれいに保ちたい気持ちやデザインにこだわりたい気持ちも生まれるのではないだろうか」と重原氏。コーリアン®のメンテナンスのしやすさはもちろん、優れた耐衝撃性、耐熱性、耐候性も採用に踏み切りやすかった理由とのこと。

コーリアン®のワークトップを採用した「レミュー」は全国のタカラスタンダードショールームで展示中。強く美しいホーローの扉とコーリアン®の洗練された組み合わせを、ぜひご覧いただきたい。

使用色
レインクラウド、クラムシェル



●お問い合わせ タカラスタンダード株式会社
<http://www.takara-standard.co.jp>
※お電話でのお問い合わせは各支店・支社・ショールームへ
お願いいたします。



デザインも機能も、
温めてきた理想どおりに

東京都 T氏邸



「まずはキッチンありきの家づくりでした」と話してくださるTさんの新居は、変形地を巧みに生かした住まい。プライバシーをしっかり守る外観からは想像できないほど開放感と光にあふれる室内で、もっとも条件のよい南側にキッチンがある。コの字の壁付けキッチンにカウンターをプラスして、ゆとりある作業スペースと収納力、充実した設備を搭載したキッチンを製作したのは、創業96年の職人技で、オーダーメイドキッチンを手がける田中工藝だ。

「キッチンは家の中でいろいろな物を置く場所ですし、料理をするときにできるだけ無駄な動きがないよう、機能的なレイアウトや収納にしたいと思っていました」とTさん。なんと高校生の頃から、インテリア雑誌を眺めて、理想のキッチンのイメージを膨らませていたそう。濃色のワークトップも、当時見たキッチンの中で印象に残っていたもの。

「グレーと木目の組み合わせにしたいと決めていました。ワークトップは田中工藝さんのショールームでコーリアン®のサンプルをたくさん見せていただいて、想い描いていたイメージに合うものを見つけることができました」というTさんが選んだのは、プライベートルームのラバロック。グレーの地にアンバーとゴールドの流れ模様に大小のクランチが入った表情豊かなカラーだ。

「T様はキッチンに対するこだわりをしっかりお持ちで、ご要望も具体的でしたので、可能な限りその理想に近づけるように設計を吟味し、ふさわしい素材を提案しました」と田中工藝のスタッフ。

今回コーディネーターとしてキッチン製作に関わった北洋交易の担当者も、ワークトップ

にはコーリアン®を推薦されていたそう。「お手入れのしやすさなど使い勝手がよいことと、色柄の豊富さ。また、素材そのものだけでなく、接合に使用するシーム剤に至るまで、品質が安定していると聞いています。T様のようにキッチンのデザインにも、機能性にもこだわりのお持ちのお客様には、コーリアン®をおすすめすることが多いですね。今回は特に、これだけのサイズのキッチンで、コの字形であっても、目地がまったく入らずかつこよく納めることができました。T様に喜んでいただけたことが何よりです」とのこと。

実際に使用されている感想をTさんにうかがうと、「落ち着いたカラーは、調理をしているときも目に優しく、何よりお料理がおいしそうに見えます」と話してくださいました。キッチンと同素材で製作したカウンターではクッキーの型抜きをするなど、お子さんと一緒にお菓子づくりも楽しまれているそう。

使用色
ラバロック



- 設計 フリーダムアーキテクツデザイン株式会社
 - 施工 柏倉建設株式会社
 - キッチン製作 株式会社田中工藝
- 東京都渋谷区代々木 4-28-7 西参道テラス N1
TEL : 03-6300-4437 <http://tanakakougei.jp/>
●協力会社 北洋交易株式会社

異素材の組み合わせ 浮遊するキッチン

大阪府 K氏邸



お客様一人ひとりと丁寧な打ち合わせで、「自分らしさを自由に表現したスタイルのあるキッチン」を提案するKOBESTYLE。素材や構造、設備機器、施工まで、キッチンに関わるすべてに精通するスタッフが、どんな小さな要望にもきちんと耳を傾け、調理や片付けがストレスなく行えるよう的確なアドバイスもしながらプランを練り上げる、オーダーメイドキッチンのプロ集団だ。

同社が製作したK氏邸のキッチンは「コーリアン®×ステンレス×ガラス」という異素材の組み合わせが目をつく。デザインを手がけたのは、K氏邸を設計した建築家の菅匡史氏。「施工はモダンデザインがお好きな方ですが、何年もかけて協議を重ねていく内に、彼の中の原風景に別のものが見えてきました。そこで、モダンデザインの中により普遍性のあるデザインが生まれました。コーリアン®は、モダンデザインを表現する上で、必須の素材だと思っています。その普遍性、無垢感、連続感、木と同じように人間との親和性に優れている点など、代替品はありません」。

お住まいを数年前に新築され、今回はライフスタイルの変化に合わせてキッチン部分のみをリフォームされたとのこと。

「機能面では、お手持ちの食器や調理器具に対して収納が足りなくなっていたこと、またダイニングとは別に、キッチンでも軽い食事をとりたいたいというご要望をうかがいました」とおっしゃるのは、KOBESTYLEの山本由紀氏。さまざまな個性あふれるキッチンを製作している同社にとっても、コーリアン®のワークトップとステンレスキッチン、特に今回採用されたウィッチヘーゼルのような模様があるものとステンレスを組み合わせるの



は、新しい挑戦だったという。「デザインも、素材の組み合わせもこれまでにないものでしたので、製作に携わりながら完成を楽しみにしていました。メーカーとして、品質と使いやすさに配慮しながら、菅先生のデザインや、お施主様の想いを最大限くみ取って形にできるよう、新しい技術や部品も導入しました」。

カウンターテーブルを兼ねるコーリアン®のワークトップは、強度を保ちながら、薄さを際立たせるため、テーパーをつけた仕上げに。デザインコンセプトのひとつであった「浮遊感」を表現できるよう、蹴込み板を鏡面仕上げのステンレスにするなど、こだわりは数えきれない。

「これからも、「こうしたい、これが好きだから」というお客様の要望に、柔軟に応えていきたいですね」と山本氏。その心意気が、デザインと品質、使い心地を両立した、長く愛されるキッチンを生み出しているのだろう。

使用色
ウィッチヘーゼル



●設計 株式会社菅匡史建築研究所 菅 匡史
●キッチン製作 株式会社 KOBESTYLE
兵庫県神戸市東灘区向洋町中 6-9 神戸ファッションマート10F
TEL : 078-857-8424 <http://www.kobe-style.co.jp/>



どんな雰囲気も自由自在。
オーダーメイドの楽しさを実感

リブレ 宮崎本社ショールーム



1 堂々たる存在感のL字形+アイランドキッチン。「タンブルウィードはやわらかな色合いに透明感のあるクラッチが入っていて、高級感もありますね」と東郷氏。2 アースを採用したアイランドキッチンは、モダンデザインの家具のような佇まい。3 サクラの木目が美しいキッチンには、モンタナボラーホホワイトのワークトップが採用されている。

色も素材も設備も自由に選べるオーダーキッチンメーカーのリブレ。使う人の好きなものやこだわりを丁寧に形にしている同社の多彩な施工例を見ると、「キッチンは、こんなに自由でいいのか」と驚くことだろう。2017年4月に3台の新しいキッチンを追加してリニューアルした宮崎本社ショールームでも、同社の提案の幅広さを実感することができる。

まず、ショールームの中でも、そのサイズと重厚感で目を引いているのが、框付きの扉デザインでクラシックな装いのL字形+アイランドキッチン。深みのあるブラックの扉はナラ材で、同社が開発した墨汁による染色仕上げだ。

「木目を生かした黒の扉材を作りたいと考え、新技術の開発に取り組んでみました。表面だけの塗装ではなく、漆器のように墨汁を塗り込んで、深い色合いをだしながら、木の質感も生かす方法を完成させました」と同社代表取締役社長の東郷彰氏。

ワークトップにはプライベートコレクションのタンブルウィードを採用して、エレガントな雰囲気。扉の存在感にひけをとらないよう、アイランドキッチンはタンブルウィードに黒いラインの入ったデザインで、ワークトップに72mmの厚みを持たせてゴージャスな印象を演出。

もう一台は、コンパクトでモダン、ディテールはシンプルな仕上がりながら、ワークトップとカウンターテーブルと一体化させるなど、特徴あるデザインのアイランドキッチン。ナチュラルな木目の扉材とプライベートコレクションの濃色のアースを採用したワークトップという、コントラストの効いた組み合わせも新鮮だ。ワークトップの厚さは24mmに抑え、スタイリッシュなインテリアともコーディネートしやすいキッチンだ。

使用色（左から）
タンブルウィード、アース、モンタナボラーホホワイト



●社名 リブレ株式会社
http://www.libre-kitchen.com/
●所在地 宮崎県北諸県郡三股町鰐池 3628-3
TEL : 0986-52-6850

3台目の新作は、サクラの扉材とモンタナボラーホホワイトのワークトップを組み合わせたナチュラルな雰囲気、温もりのあるアイランドキッチン。40mmの厚さにデザインされたワークトップは、キッチンのサイドまでつながるゲート型でボリウムのあるデザインだが、モンタナボラーホホワイトの透明感とアールをとった角の仕上げがやわらかさも演出。折りたたみ式のカウンターテーブルには、子どもが上にのっけても重量に耐えられる頑丈な金具を採用。家電を含め、ものが見えない収納キャビネットなど、子育て世代にもうれしい提案が詰まっている。

「コリアン®の最大の利点は、木材と同じように自社工場加工ができること、重厚感ややわらかさなど幅広い表現が可能なこと。今後はさらに高級感のある加工や仕上げの方法を開発したいと考えています」と東郷氏。

同社の自由な発想とあくなき探究心が、コリアン®で実現できる表現の幅を、さらに押し広げてくれることだろう。

空間と調和するキッチンに コーリアン®の特注色

クリナップ ステンレスキャビネットキッチン
「STEDIA(ステディア)」



クリナップは、発売35年のロングセラーであり同社を代表するステンレスキャビネットキッチン「クリンレディ」の後継機種として、新ブランド「STEDIA（ステディア）」を発表。2018年9月3日から受注を開始する。

「お気に入りのテイストで揃えた居心地の良い空間（大人インテリア）」をデザインコンセプトとする「ステディア」は、「クリンレディ」の特徴である「ステンレスエコキャビネット」「流レールシンク」「洗エールレンジフード」などの機能的なアイテムはそのままに、フロアコンテナ（足元収納）の意匠を一新。扉面材には、北欧テイストやフレンチレトロ、ヴィンテージ風など、さまざまなデザインテイストに対応する5クラス38色を揃えて、これまでに以上にリビング・ダイニング空間と調和するシステムキッチンになった。そして、ワークトップには、コーリアン®の流れ模様の特注色5色がラインナップに加わっている。

コーリアン®の特注色採用について、「ステディア」の開発を担当された同社の大澤春菜氏と本間永一氏にお話をうかがった。

「クリンレディは35年の実績があり、こうあるべき、というデザインの方向性がかなり絞りこまれていました。そこでステディアの開発にあたっては、デザイン面で今までは異なるアップローチが必要だと感じていました。そのような中で、コーリアン®の特注色のお話が浮上しました」。

システムキッチンのワークトップとして確固たる実績のあるコーリアン®の中でも、この数年、商業施設での採用例を目にする機会が多く、バリエーションも増えた「デュボン™プライベートコレクション」には特に注

目をしていただいていたという。

「空間と調和しながらも、繊細な色の変化や優しい質感があり、システムキッチンのように常に身近にあっても、心地よさを感じる素材だと思いました。今回、ほかのどの素材でもなくコーリアン®を採用した理由は、その『流れ模様』に、均一なものや画一的な素材とは異なる価値を見つけたからです。その製造方法をお聞きすると、たとえば、お菓子をつくるような方法で色付けをしたり、クランチを混ぜたりしているとのこと。当然、まったく同じ柄はつくれません。それがとても面白く、世界に一つだけしか存在しないキッチンのワークトップになる、というストーリーを考えていました」。

また、「ステディア」で採用されているアクリル系人工大理石製の「流レールシンク」とコーリアン®のワークトップを組み合わせると、継ぎ目のない一体感のあるワークトップで、高いインテリア性とメンテナンス性を実現できる。

「コーリアン®の加工性の良さ、自社製人工大理石との相性の良さも、今回、特注色を採用させていただいた理由の一つです」とのことだ。



スフレブルーグレー 爽やかなイメージの洗練されたキッチンを演出するブルーグレーの色调に、ふわふわにふくらんだメレンゲのような白い流れ模様が映え、優しさを添えます。



フランホワイト フランスの伝統菓子フランをイメージし、白いクリームが溶け込んだ、やわらかな表情を表現しました。ソリッドなイメージでありながらも温かみを感じさせます。



フォレノワール フランス・ドイツの国境地帯に横たわる「黒い森」を意味するチョコレートケーキをイメージ。シックで存在感あるキッチンを実現する深みのある流れ模様が特徴です。



アマンドナチュラル ナチュラルなホワイトをベースに、アーモンドをイメージした褐色の彩りを流し込みました。磨き上げた自然石のような高級感の中にも、温もりのある流れ模様です。



ティーグレイジュ やすらぎのひとときを与えてくれる香り高い紅茶をイメージした、やわらかな流れ模様が特徴です。落ち着いたグレイージュ色に、白いクランチが映えます。



上質な空間に映える
ソリッドなキッチン

VILLAIR





豊かな自然に囲まれ、眺望の素晴らしい土地に建てられたセカンドハウス。施主の要望は「モダンかつラグジュアリーな家」だった。設計を手がけたのはMETAPH建築設計事務所。景色のみに視線が向かうように居住空間を敷地から張り出すように設け、雑多な景観や外からの視線を遮ってプライバシーを確保した。LDKの大きな開口部からはテラス、プール越しに神戸や大阪のパノラマを一望することができ、そのダイナミックな空間の中央にキッチンが配されている。

「建築家から伝えられたイメージは、『造形的な塊』。フォルムの基本は台形を立体化した四角錐台でした。色は奥様の好きな白で、他にはないキッチンというオーダーでした」と語るのはキッチンのデザイン・設計を担当した今井商店の今井智仁氏。内装や家具、照明など、空間を彩る一つひとつのものに存在感があるため、キッチンは主張しすぎず、しかしありきたりではないものが求められた。

四角錐台を構成する6つの面はそれぞれが異なる大きさ・形をしていて、角度もそれぞれ異なる、まさに唯一無二のフォルム。テーブルとして使う側は、ハイチェアを置いたときに足が収まるように面の角度を調整するなど、機能性にも配慮されている。素材はワークトップのみならず、キャビネットの扉面も含めて5面すべてにコーリアン®が採用された。

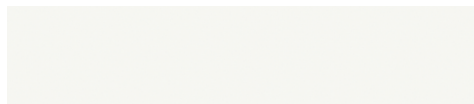
「いろいろな素材がある中、言葉では表現しきれないほど複雑な形状のキッチンを、目地や継ぎ目のないひとつの塊として表現できるのはコーリアン®だけ。面と面がジョイントする角のシャープなラインも美しく仕上げることで加工性の高さも魅力です。コーリアン®は白色のバリエーションも豊富ですが、今

回はこっくりとした、濃度の高い質感のあるカラーを選択しました」と今井氏。複雑な形状ゆえに図面だけではどの面がどう入り込んでいくかなどを製作側に伝えることが難しかったため、実物大の模型をつくり、各面の部材のサイズや組み合わせ方も細かく指示するなどして対応したという。

「表からの見え方も大事ですが、キッチンを使う人にとっては作業側がメイン。一般的には表から見えない側は素材を変えるケースも多くありますが、ここではキャビネットの扉や引き出しの面材といった作業側もコーリアン®を採用しました」と今井氏。引き手部分はダイヤ形に仕上げ、開閉のしやすさとデザイン性を両立。5面すべてをコーリアン®とすることで、より完成度の高い「塊」を表現しているという。

空中に浮かぶかのようなLDKの大空間に映える「白い塊」は美しいオブジェのよう。ゆったりと流れる上質な時間のなかに、凜として佇んでいる。

使用色
ミルクイーホホワイト（2019年3月カタログ掲載終了色）



●設計 METAPH 建築設計事務所
●キッチン デザイン・設計 神戸 今井商店 今井智仁
imai@world.ocn.ne.jp
●コーリアン® 加工協力会社 マーブル建材株式会社

美食とともに寛ぎの時を。
人が集うキッチン

姫路市 K氏邸



1 J型キッチンを2階から見下ろす。コーリアン®が床や建具に用いられた木の質感とも調和し、スタイリッシュななかにも温もりを感じさせる空間を演出。ワークトップと同じコーリアン®でつくった蓋を開めれば、内蔵された鉄板焼き機の存在もまったくわからない。2 ワークトップの側面は流れるような曲線を描きながら厚みが大胆に変化するデザイン。ゲストの誰もが想像以上の存在感に驚きの声をあげるといふ。

ハワイに年1回、1ヶ月は滞在するというオーナーご夫妻の要望から生まれたハワイのリゾートハウスのようなK氏邸。中庭のプールテラスに面して大きな開口をもつ、天井高5mのダイナミックな吹き抜けのLDKで中心的存在となっているのが、全長4mものアイランドキッチンだ。

「わが家は来客が多く、妻は料理が得意なので、新築にあたっては『人が集まるキッチン』をイメージしました。以前の住まいはキッチンが離れていて、リビングなどで友人たちと会話を楽しんでも料理をする妻だけは孤立状態。そこで希望したのがリビングとダイニング、キッチンを一体にすること。キッチンのワークトップにダイニングカウンターをつなげ、さらに鉄板焼き機もカウンターに造り付けたいとお願いしました」とK氏。

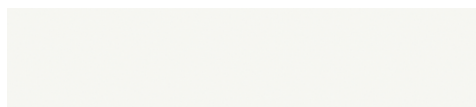
キッチンの設計・デザインを手掛けたのは今井商店の今井智仁氏。建築設計の田中一郎建築事務所・田中氏から示されたLDKの平面図とキッチンイメージをベースに、お互いの意見を交わしながらつくり上げていったという。

「ワークトップは上から見るとアルファベットの『J』字型。オーナー様の名前の頭文字を採り入れました。さらに変化をつけるため、側面は美しい弧を描きながら、カウンターの厚みが大胆に変化するデザインに。カウンター自体が長いので、端まで食卓として必要な強度がとれる厚み・形としています」と今井氏。ワークトップ・側面とも、コーリアン®ならではのシームレス接着で継ぎ目がまったく見えないう仕上がりになっていることで、個性的なフォルムがより美しく際立っている。シンクも専用の接着剤でワークトップと一体成形のように仕上げ、よりスタイリッシュな趣を演出している。

「ワークトップが主役となるよう、キャビネット部分はステンレスの鏡面ブラック仕上げを採用して存在感を消しているのもポイント。ワークトップにはつと目がいったときに、下のキャビネットの存在が気にならない、けれど高級感のある素材を選びました」と今井氏。

「提案を受けたときは石のように冷たいのではないかと心配しましたが、実際は見た目も触り心地も温かみがあって気に入っています。汚れがつきにくく、掃除もさっと拭くだけできれいなこともうれしいですね。シンクとワークトップも継ぎ目がないので汚れがたまりず清潔さを保てます。使い勝手の点でも、作業スペースは広々としてゆとりがありますし、調理をしながらカウンターに座る人にもリビングやプールサイドで寛ぐ人にも目が届きます」と奥様。引越してから1年が経ち、多くのゲストが訪れ、奥様の手による美味しい料理とともに楽しい時間を過ごされている様子。シンボリックなキッチンを中心に、今後もよりたくさんの方のコミュニケーションが広がっていくとだろう。

使用色
ミルキーホワイト（2019年3月カタログ掲載終了色）



●設計 田中一郎建築事務所
●キッチン デザイン・設計 神戸 今井商店 今井智仁
imai@world.ocn.ne.jp
●コーリアン® 加工協力会社 マーブル建材株式会社